

○学習指導の充実・深化

課題5 個性を生かす指導計画と評価の改善・充実

- (1) 基礎・基本の定着を目指した目標・指導・評価を一体化した指導計画
- (2) 児童生徒一人一人の興味・関心や習熟度など、個に応じた指導計画
- (3) 個人差・学年差に応じた指導計画

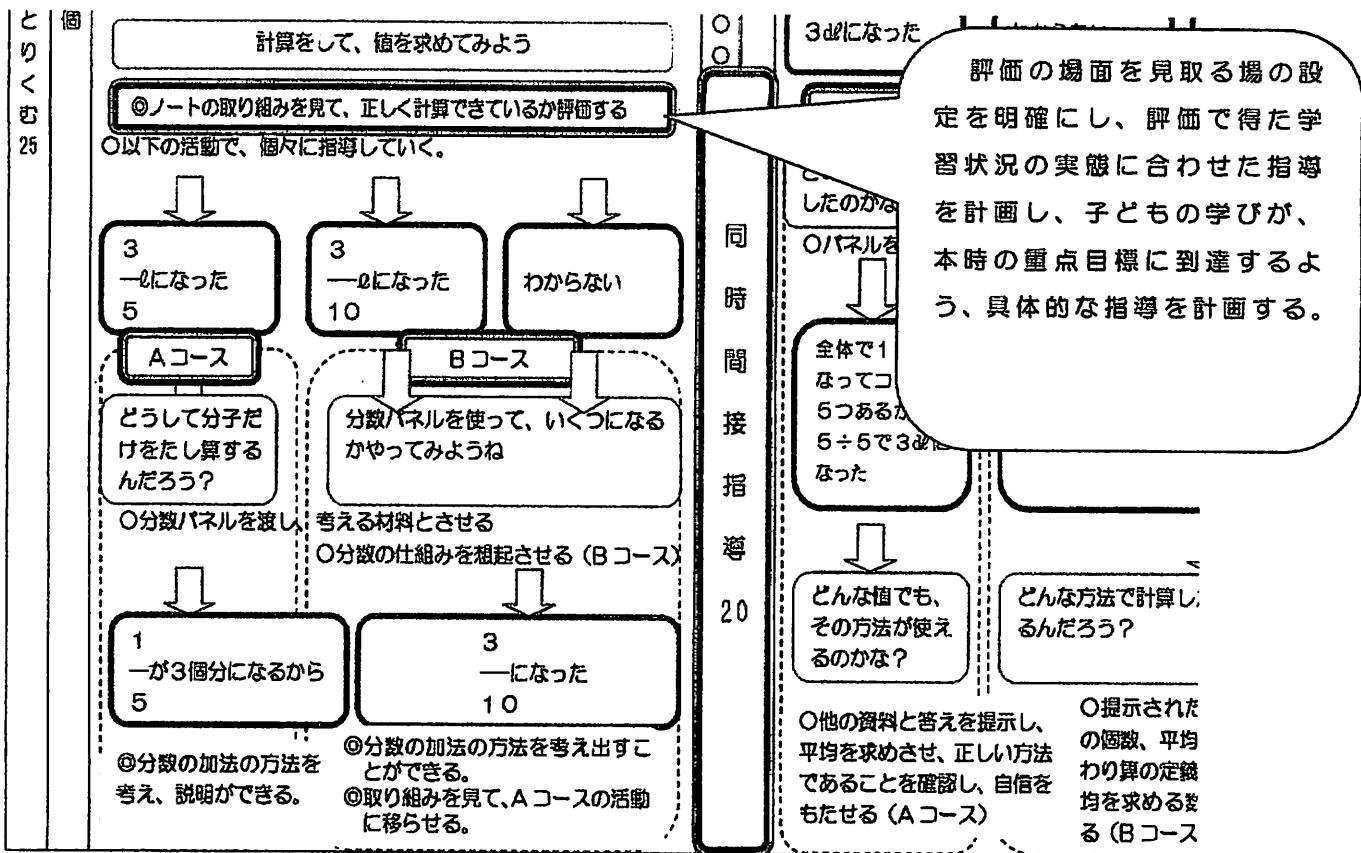
I 目標・指導・評価を一体化した指導計画と個に応じた指導計画例（天塩町立啓徳小中学校）

1 指導計画における評価の明確化

<p>②同分母分数の加法計算 ・$1/5+2/5$ のように分数でも加法ができることを知り、その計算のしかたを考える。</p>	<p>ている。 【関・意・態】 ・単位分数の個数の加法として、同分母分数の加法の計算のしかたを考慮することができる。 【数学的思考】 ・同分母の真分数どうしの加法の計算ができる。 【表現・処理】 ・同分母の真分数どうしの加法の計算の意味やしきたがわかる。 【知識・理解】</p>	<p>を考えたり、様々な加法に取り組んだりしている。 単位分数の個数の加法として、同分母分数の加法の計算のしかたを考え、説明の仕方を考えることができる。 ・同分母の真分数どうしの加法の計算ができ、加法の仕方が説明できる。 ・同分母の真分数どうしの加法の計算の意味やしきたがわかり、どんな問題にも対応できる。</p>	<p>を考えようとしている 単位分数の個数の加法として、同分母分数の加法の計算のしかたを考慮することができる。 ・同分母の真分数どうしの加法の計算ができる。 ・同分母の真分数どうしの加法の計算のしかたがわかる。</p>	<p>・資料の中に〇がある場合の平均の求め方を考える。 ・平均で表す数なども小なることを</p>	<p>【関・意・態】 ている。</p>	<p>評価の観点は、子どもたちに問題解決の過程で発揮したり、獲得したりしてほしい力の構成要素を一般的に示したものである。したがって、実際の活動では、目標や内容に応じた評価規準へさらに具体化する必要がある。そこで、単元全体を見通し、一単位時間ごとに評価を明確にし、「どの児童・生徒にも到達してほしい目標（めやす）」をとらえ、設定する。</p>
<p>4 1の入り数はいくつひょうかな？</p>	<p>単位分数の個数の加法として、同分母分数の加法</p>	<p>単位分数の個数の加法として、同分母分数の加法</p>	<p>単位分数の個数の加法として、同分母分数の加法</p>	<p>4 いろいろな平均を調べてみよう</p>	<p>【関・意・態】 ている。</p>	<p>児童、漢字、フキ、フキ等の資料を活用し、様々な平均</p>

2 目標の重点化

<p>6. 本時の目標</p> <p>【関心・意欲・態度】 ○分数タイル等の操作物を使い、分数のたしざんに取り組もうとしている。</p> <p>【表現・処理】 ○同分母の真分数どうしの加法の計算ができる。</p> <p>【知識・理解】 ○同分母の真分数どうしの加法の計算の意味やしきたがわかる。</p>	<p>6. 本時の目標</p> <p>【関心・意欲・態度】 ○図で表現した分数</p> <p>一単位時間の学習活動の総括目標を観点ごとに具体化した「どの児童・生徒にも到達してほしい目標（めやす）」をとらえ、設定する。</p> <p>【表現・処理】 ○資料</p> <p>【知識・理解】 ○い</p>
---	---



3 評価を見取る場の工夫

複式学習指導において、児童の学習のつまずきを見取り、理解へと導く指導（評価）の機会は、間接指導中におけるものがほとんどである。直接指導を設定し、評価を見取ることが最も適切に行えるが、複式学習指導では、間接指導中に評価を見取ることが必要である。両学年双方の学習のつまずきを見取るためには、自由に双方へ関わる時間の生み出しが必要とされる。そのため、両学年を自由にわたることができる時間『同時間接指導』を意図的に生み出し、評価を見取り、指導との一体化を図っていく。

4 実践授業から

- 3・4学年国語科 3年「わすれられないおくりもの」
- 4年「一つの花」：阿部志保教諭

(1) 一単位時間の重点目標

<p>6 本時の目標</p> <p>○「心はのこる」という意味について、叙述を読みながら考えようとしている(関)</p> <p>○「心はのこる」という意味について、叙述を読みながら考えることができる(関)</p> <p>○「心はのこる」という意味について、叙述を読みながら自分の考えを書ける(書)</p>	<p>6 本時の目標</p> <p>○ものがないという時代背景をもとにお母さんの思いを想像しようとしている(関)</p> <p>○ものがないという時代背景をもとにお母さんの思いを想像することができる(関)</p> <p>○ものがないという時代背景をもとにお母さんの思いを書ける(書)</p>
--	---

(2) 評価の見取りの工夫 (同時間接指導)

複式指導における間接指導中に、児童の学習の評価を行うことがほとんどである。両学年双方の学習のつまずきをみとるには、間接指導中に評価を行う必要がある。その時間を生み出すため、同時間接指導の時間を設定した。同時間接指導の時間を設定することで、両学年の児童の学習のつまずきを評価でき、学習に対する意欲を高めることができる。と考える。

(3) 本時の実践

<p>5 課題をつかむ</p> <p>「心はのこる」の心とは何だろう</p> <p>・ワークシートに自分の考えを書く ※文章をもとに考えた自分の考えを書くこと</p> <p>「みんなの心に残る心とは いったい何のことだろう」 ※ワークシートに書いてい るかどうか確認する ◎あなぐまがどんな人なの かをもとに、心について想 像しながら考えることがで きる</p> <p>B: 文章をもとに書くことができる C: 書くことができない C: 文章をもとに書いていない</p> <p>↓</p> <p>根拠となる理由もつけて答えられるように助言 ワークシートに書かれていることを確認するよう助言 かしくてたよりにされていることを確認</p>	<p>同時間接指導</p>	<p>4 課題をつかむ</p> <p>お母さんはどうして「一つだけ…」が口ぐせになってしまったのだろうか</p> <p>・ワークシートに自分の考えを書く ※文章をもとに考えを書くこと</p> <p>「お母さんは、どうして一つだけ…が口ぐせになってしまったのだろうか」 ※ワークシートに書いてい るかどうか確認する ◎ものがないという時代育 成をもとにお母さんの思い を想像しながら考えること ができる</p> <p>B: 文章をもとに書くことができる C: 書くことができない C: 文章をもとに書いていない</p> <p>↓</p> <p>根拠となる理由もつけて答えられるように助言 ワークシートに書かれていることを確認するよう助言 どんな食べ物を食べていたのかを確認</p>	<p>みつける◎</p> <p>答える◎</p>
<p>6 交流</p> <p>・自分の考えを友だちと交流する やくそく ※友だちの考えに対して「それは違う」といった否定はしない ※考えた理由を聞き、なるほどと思った考えはメモする ※考えた理由も聞く</p> <p>※最終的に自分の考えを書くことができなかったとしても、友だちの考えを聞き、交流には参加する 「どのように考えたのか発表し合います。」</p>	<p>5 交流 (2グループに分ける)</p> <p>・自分の考えを友だちと交流する やくそく ※友だちの考えに対して「それは違う」といった否定はしない ※考えた理由を聞き、なるほどと思った考えはメモする ※考えた理由も聞く</p> <p>※最終的に自分の考えを書くことができなかったとしても、友だちの考えを聞き、交流には参加する 「どのように考えたのか発表し合います。」</p>		

児童のつまずきに合わせ適宜、助言することで、児童の意欲が持続すると考えた。また、指導する際に、どのように考え、課題を進めているのかを合わせて評価することでさらに意欲が高まると考えた。大きく分けて、「叙述に沿って書くことができる」「書いているが叙述に沿っていない」「書いているが叙述に沿っていない」の3つの姿が予想されるため、「叙述に沿って書くことができる」子には、なぜそう考えたのか、根拠をもち話すことができるよう指導する、「書くことができない」子には、叙述にある言葉に替目するよう指導した。「書いているが叙述に沿っていない」子には、どんなことを森の動物たちにしてたのかを具体的にたずねる指導をする。それぞれの児童の実態をとらえ、評価をし、助言をすることでさらに意欲が高まると考えた。

お母さんの「一つだけ…」が口ぐせとなってきた理由

毎日、()が飛んできて、()を()の隣としていきました。町は、次々に焼かれ()ました。

戦争のはげしかったころ()だの()だの、()だの、そんなものは、どこへ行ってもありませんでした。


()の代わりに配給される
.
.
.
しかありませんでした。

()の時でも、()の時でも、「
。」と書いて、いくらでもほしがるのでした。
「じゃあね、。」と書いて、自分の分から()
()、ゆみ子に分けてくれるのでした。
「。」と、これが、お母さんの()になってしまいました。

しらすしらすのうちに、お母さんの、この()をおぼえてしまったのです。

4年「1」の宿(1) 秘密

ワークシート



5 個人差に応じた指導計画

指導計画において	3	6	Bコース	Aコース
			・2位数×1位数(十の位の数との部分積が2けた、及び部分積がみな2けた)の筆算の仕方を理解する。 ・具体物を提示する(お金)	・チャレンジプリントで習熟を図る。
指導個の段階で、個に応じた個を立て、毎時間の評価から、実態に合うコースを足すため、毎時間の基礎・基本を定着させていくことができます。	7	8	・2位数×1位数の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。 ・買い物ゲームで楽しく習熟を図る。 ・具体物を提示する。	・2位数×1位数の文章問題作りをする。(チャレンジ学習)
	8	9	・3位数×1位数(部分積がみな1けた)の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。 ・具体物を提示する。	
子どもをそれぞれのコースに限定せず、課題を受けて自由に選択することで、自分なりの解決方法が身についたり、より発展的な学習の取り組み力をつたりし、自信をもたせることができました。また、計算過程の説明の仕方、話し合いの進め方などのスキルを、単元を通して身につけていったことで、子どもたちが学習を進めたりすることができ、指導を必要とする児童への指導の時間を確保することができました。	9	10	・3位数×1位数(一、十の位の数との部分積が2けた)の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。 ・買い物ゲームで楽しく習熟を図る。 ・具体物を提示する。	・(チャレンジ学習)
	10	11	・3位数×1位数(部分積がみな2けた、及び部分積を加えたときに繰り上がりあり)10の筆算のしかたを理解し、その計算ができる。 ・3位数×1位数の筆算の理解を確実にする。 ・文章問題に取り組み、(絵図を用いて理解する)	・チャレンジプリントや補充問題・発展問題等で習熟を図る(チャレンジ学習)
	11	12	・乗法の結合法則について理解するとともに、3つの数の乗法が1つの式に表せることを理解する。(A×B)×C=A×(B×C) ・具体物を提示する。	・結合法則を用いることのできる文章問題作りをする(チャレンジ学習)
	12	13	・学習内容の習熟を図る。	

2. 問題提示

おつかいをたのまれました。おつかいのないようは、「かぼちゃを3つ買ってきて」です。いくらお金を用意すればいいのでしょうか？

- ・問題提示後にかぼちゃの値段を提示
- ※かぼちゃの値段をふせて問題を提示し、「かぼちゃっていくらなの？」という疑問を引き、を提示することで、対象となるかぼちゃの値段に注目させる。

本時において

3. 課題提示

253×3の計算のしかたを考えよう

・(一、十の位の数との部分積が2桁)の筆算

能力別

4. 課題に取り組み

- ※自力解決に試み、困難な場合はBコースへ、できる場合はAコースへ。
- ※それぞれのコースの中で、筆算のしかたを理解した段階でまとめを行う。(オープンエンド)

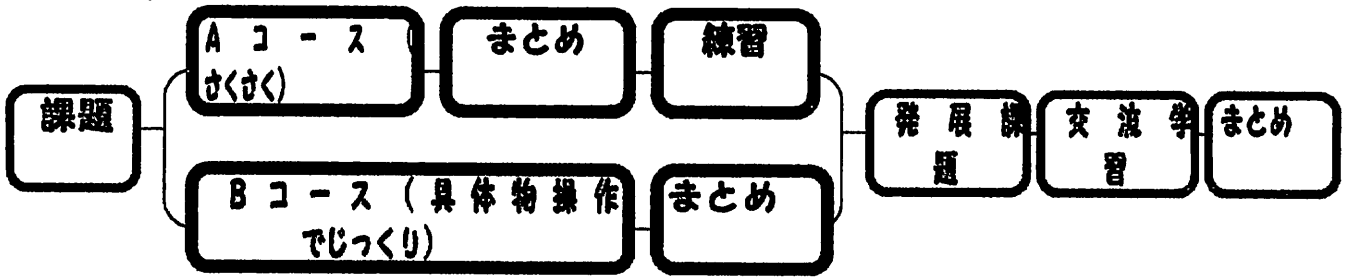
Bコース	Aコース
<p>(具体物を使用して解決) 教室後方</p> <p>※繰り上がる場面を、お金の具体物を使って理解を深めさせる。</p> <p>①お金を使って、一、十、百の位の部分積を求める。</p> <p>②繰り上がりがある部分を、硬貨で換算する。 十円硬貨10枚で百円玉硬貨1枚と交換させる</p> <p>③それぞれの部分積の和を求める。 ○筆算のしかたと合わせて、具体物操作をさせる。</p> <p>④先の手順を確認しながら、同じ表記数を使用し、数</p>	<p>(自力解決) 教室前方</p> <p>①回答を出す</p> <p>②計算のしかたの説明を文書化する</p> <p>③発表し合う ○自分の考えをノートに書いて考える。</p> <p>④プレゼンテーションを使用し、筆算のしかたをまとめる</p>

授業の中で、コースを設定し、指導者からの促しや、子どもの選択から、理解するための学習時間を確保し、コースごとにつまづきに適した指導を行い、学習内容を理解させることができました。

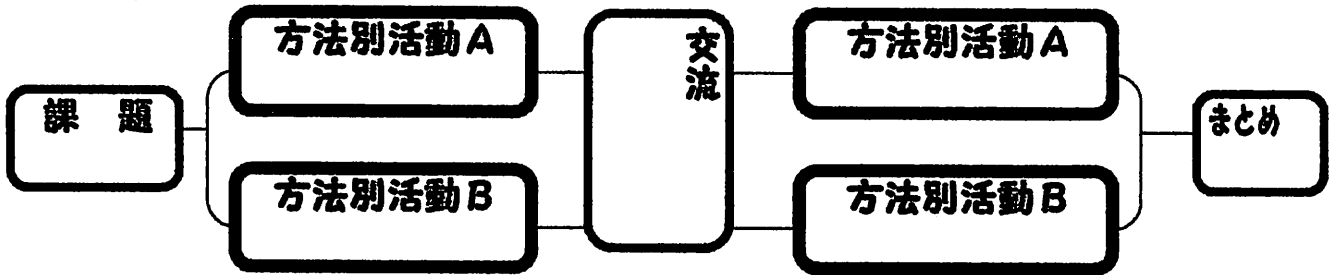
6 コース別授業の実践

(1) 方法別学習

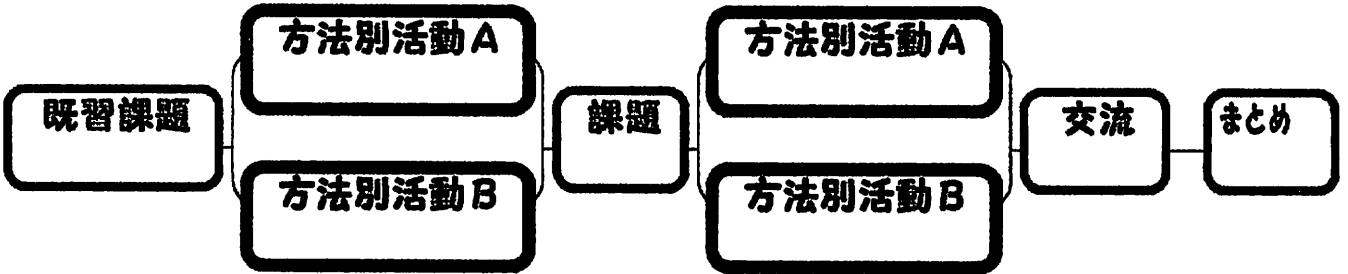
ア.



イ.

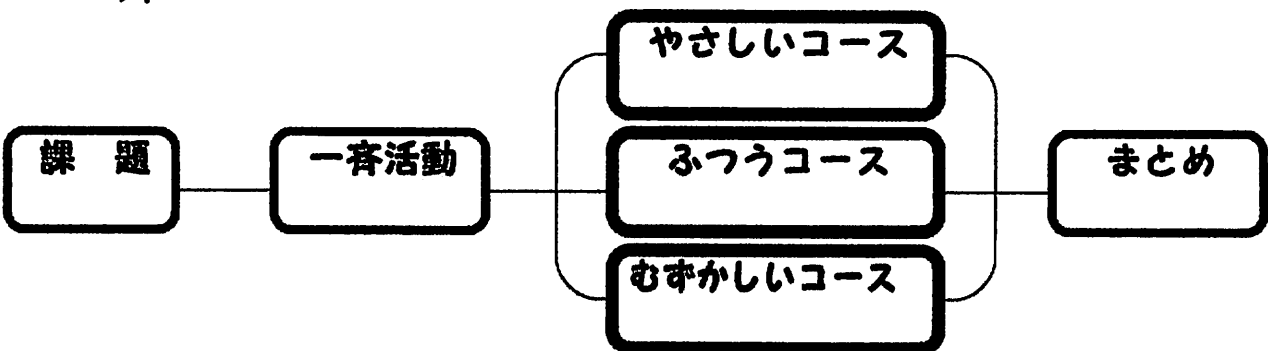


ウ.



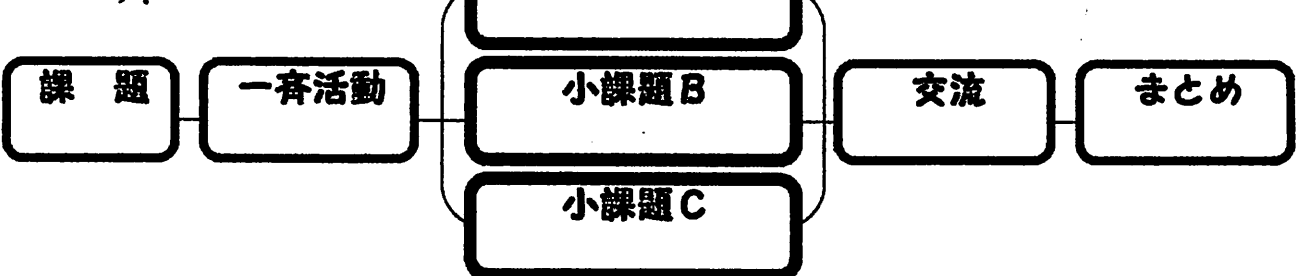
(2) 習熟度別学習

ア.

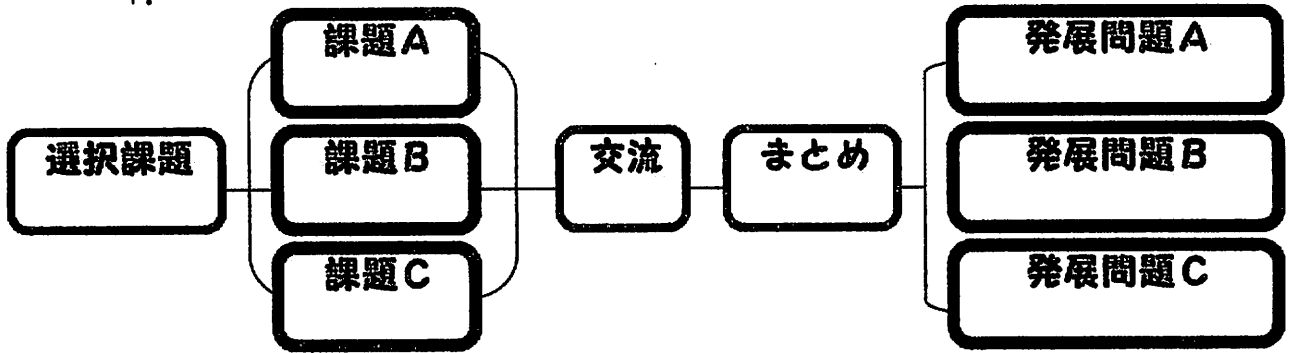


(3) 課題別学習

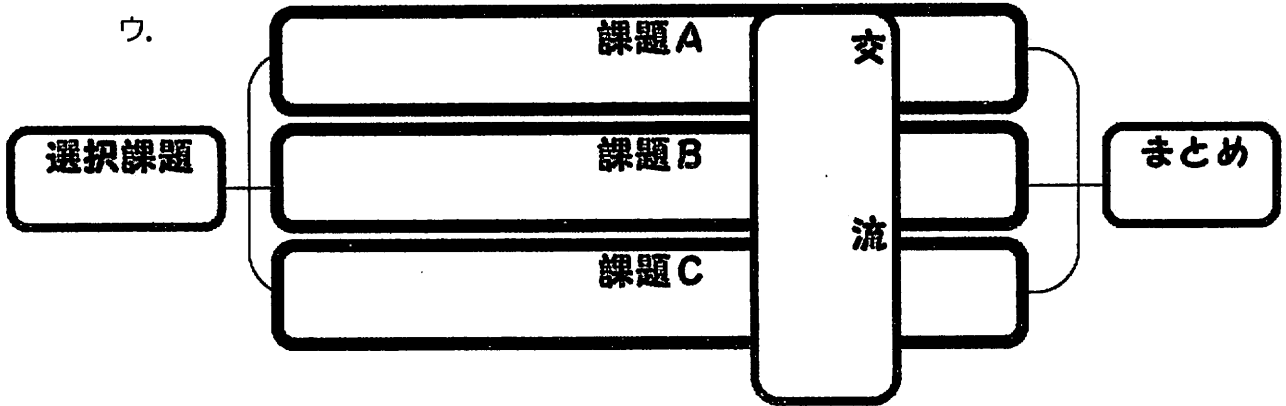
ア.



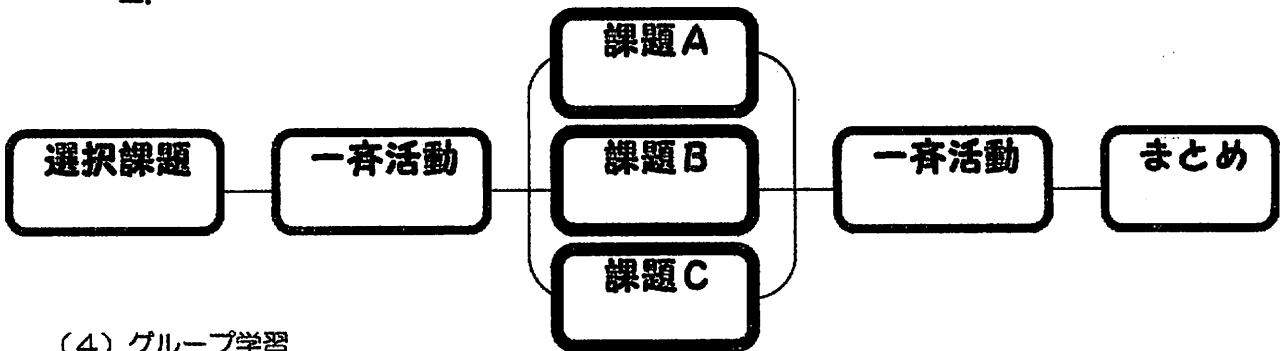
イ.



ウ.

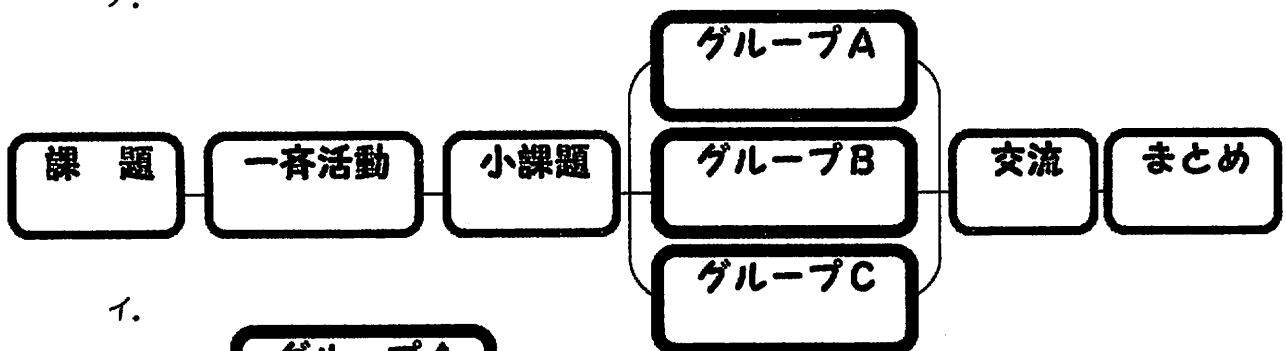


エ.

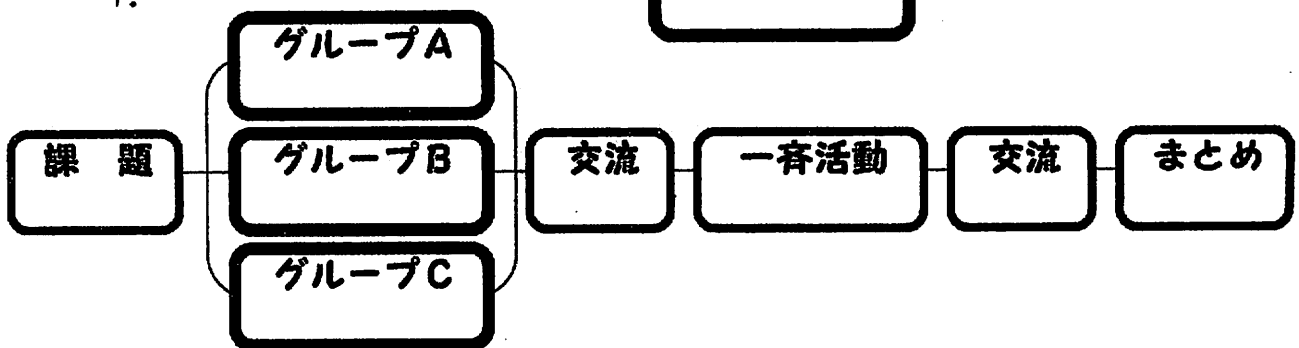


(4) グループ学習

ア.



イ.



Ⅱ 個人差に応じた指導計画例（土幌町立西上音更小学校）

1 子どもの実態を的確に把握し指導に生かす個人カルテ作成と活用

【個人カルテ作成のポイント】

- 領域の系統を考慮し、単元ごとに4観点について、授業の見取り、単元テストの結果等の内容を記述する。
- CRT学力検査の観点別得点率、領域別得点率を記入する。
- 過去3年間の学習履歴を分析し個人カルテに記載する。

<実践例> 個人カルテ

		3年生	4年生			氏名 ○ ○ ○ ○	
				関・意B(50%) 表現C(45%)	数考C(20%) 知識B(55%)	CRT学力検査の 観点別得点率を記入 し観点毎の傾向を把 握する。	
数 と 計 算	総合分析	小領域	CRT 得点率	関心・意欲・態度	数学的な考え方	総合分析	
		<p>[得点率40%] 計算に時間がかかる。2位数のかけ算やわり算の仕方が定着していない。 繰り返し学習をしながら定着するように指導してきている。 実生活に関する問題に興味・関心をもつとともに、操作活動などの算数的活動を通して理解することができる。</p> <p>領域の系統性を学年順に並列することで、実態把握がしやすくなります。</p> <p>総合分析の子どもの実態やよさを踏まえ、指導計画を工夫改善します。 【研究内容1-(2)参照】</p>	<p>億や兆を表す仕組み</p> <p>億や兆の位の数の読み方を既習の位の数の読み方から調べて調</p> <p>億、兆の位に及ぶ整数の仕組みを考えようとしていた。</p> <p>計算方法を筋道立てて説明することは難しい。</p> <p>小数も整数と同じで十進構造になっていることをとらえさせることができた。</p> <p>領域全体を通して、学習の習熟の程度の度合いや進歩したことを記述します。</p>	<p>50%</p> <p>30%</p> <p>40%</p>	<p>億や兆の位の数の読み方を既習の位の数の読み方から調べて調</p> <p>除法の計算の仕方をもとに考えようとしていた。</p> <p>小数のよさに気付き、進んでこれを用いようとした。</p> <p>身の回りからそれらの図形を調べて探そうと</p> <p>CRT学力検査の領域別得点率を記入し領域毎の傾向を把握します。</p>	<p>億、兆の位に及ぶ整数の仕組みを考えようとしていた。</p> <p>計算方法を筋道立てて説明することは難しい。</p> <p>小数も整数と同じで十進構造になっていることをとらえさせることができた。</p> <p>角の大きさを比べるときに、単位の大きさの数値について</p> <p>二等辺三角形の性質や円の性質について考えようとしていた。 円の半径を利用して作図していない。</p>	<p>[得点率30%] 数の仕組みの理解が低く、たし算、ひき算の筆算では時間がかかり、誤答も多い。ひき算の誤りが多いので、今後とも1けたのたし算、ひき算からの復習が不可欠である。</p> <p>[得点率40%] 90°より大きい、小さいの弁別はできるが、目盛りを正確に読むことができない。</p>
量 と 測 定	総合分析	分数小数の意味表示方法	40%	40%	40%	[得点率40%] 90°より大きい、小さいの弁別はできるが、目盛りを正確に読むことができない。	
図 形	総合分析	二等辺三角形 正三角形	70%			[得点率70%] 図形の分別は低学年でも概ねできており、円を描く活動も楽しそうに取り組んでいた。 二等辺三角形、正三角形の作図はできていた。	

2 主体的な学習を促す指導計画の再構成

子ども一人一人の主体的な学習を促すため、個人カルテを活用した指導計画の改善を図っている。子どもが自ら解決を図ろうとする問題や、教材・教具を工夫することにより、課題解決に取り組む力を身に付けることができると思う。

<実践例>身近な共通体験活動を組み込んだ複式算教科指導計画
〔個人カルテ〕

数と計算	3年生	4年生 氏名 ○○○○ 関・意B(50%)・数考C(20%)・表現C(45%)・知識B(85%)				総合分析 数の仕組みの理解が 総合分析の子どもの実態 やよさを踏まえ、子どもが 主体的に学習できるよう指 導計画を再構成します。 今後とも1けたのた
	総合分析 実生活に関する問 題に興味・関心をも つとともに、操作活 動などの算数的活動 を通して理解するこ とができる。	小領域 分数 小数の 意味表 し方	CRT 40%	関心・意欲・態度 小数のよさに 気付き、進んで これを用いよう とした。	数学的な考え方 小数も整数と 同じで十進構造 になっているこ とをとらえさ ることができ	

「長さをはかろう」【第3学年指導計画】

「小数」【第4学年指導計画】

学習目標	主な学習内容	時数	学習目標	主な学習内容
紙飛行機が飛んだ距離を測定することができる。	紙飛行機が飛んだ距離を巻き尺を使って測定する。	共通体験活動① 紙飛行機 1 2	紙飛行機の飛んでいる時間を測定することができる。	ストップウォッチで紙飛行機の飛んでいる時間を測定し記録する。
学校から友達の家までの道のりを測り、記録することができる。	学校から友達の家までの道のりを測り、記録する。	4 5 共通体験活動② 自転車での道のり測定	学校から友達の家までの道のりを測り、小数で記録することができる。	学校から友達の家までの道のりを測り、小数で記録する。
道のりと距離を理解する。道のり、距離のたし算、ひき算を理解する。	図と体験記録をもとに、道のりと距離について考える。	6 7	長さの小数のたし算、ひき算を理解する。	図をもとにいろいろな小数のたし算、ひき算を考える。
巻き尺で長さを測り、長	自分で測りたいも	7 8	水のかさのたし算、ひき	水のかさのたし算、

<実践例>第4学年「小数」

学習活動	教師の支援	教材・教具の工夫
つ か む ○課題をつかむ 紙飛行機が飛んでいる時間を調べよう。 ○時間の単位について発表する。 ・1時間、1分、1秒など	○活動場所（体育館）の安全について確認する。	数と計算領域の学習の導入は、興味・関心を高め、子どもが自ら解決を図ろうとする問題を工夫します。
考 え る ○時間を記録した経験について発表する。 ・短距離走やマラソンなど ○ストップウォッチの使い方を知る。 ・小数点以下の表示を確認する。 ○測定を始める。 ・スタートとストップの押すタイミングを練習する。	○ストップウォッチの使い方を確認する。 ○100分の1以下の数の扱いを指導する。 ・ストップウォッチのスタートとストップを押すタイミングを確認する。 ○途中で飛行機を作り変えてもよ	自分で工夫しながら紙飛行機を作ることによって興味・関心を高めました。 小数を用いると単位量に満たない端数部分の大きさを表せるよさに気付かせることができました。

- 測定した時間を記録用紙に記入する。
- ・何度か紙飛行機を飛ばして時間を測定する。

いことを伝える。



【教材・教員工夫のポイント】

- 身近で子どもの興味・関心を高める。
- 一人一人が扱い、基礎的・基本的な事項がわかりやすい。
- 操作活動、体験を通して学べる。

【子どもの変容】

- ①紙飛行機や自転車で実際に測定するなどの体験活動により、主体的に課題解決を図ろうとする姿が見られた。
- ②自作の立体模型を使うことにより、課題に対する自分の考えを確かめながら整理する事ができ、自信をもって発表する姿が見られた。

3 学ぶ意欲を育む自己評価

子どもが自分の学びを振り返り、学び方や成長を実感できる自己評価を工夫することにより、学習に対して自信をもち、意欲的に学び続けることができると考えている。

【自己評価のポイント】

- 単元を通して継続的に実施し、子どもが自らの進歩や成長が確認しやすい内容とする。
- 発達段階や学習内容に適した評価方法を用いる。(カード・ノート・発表)
- 教師の評価等も参考にしながら、自己評価能力を高める。

<実践例>

第2学年「繰り下がりのあるひき算」自己評価カード

日誌	学しよう	ひょうか QQA	かんそう	発表
	今日のかだい		くり下がりのあるひき算	
9/4	すんできしゅうできた	△	けずことかくことを	おぼこと くりかえす よう、自分 気づきよ。
	じぶんのかんがえ はっぴょうできた	○	わすれた。	よ見、 かええ。
	今日のかだいが わかった	△		

繰り下がりの計算の時に、十の位から繰り下げる印を忘れた。このことを自分で振り返り、次の時間に生かし、自分の成長を実感できる機会となった。

本単元では、子どもに感想を書かせ、観点毎に自己評価能力を高める取組を継続的に行った。「今日のかだい」として、学習内容を意識させ、同じ項目を継続的に自己評価項目とした。

これにより、学びを振り返る視点が継続され、次の時間に努力することが明らかになった。

「～できるようになってきた。」「…引けるときは、かりてこない。」などの意欲が表れた言葉が見られるようになった。

児童の自己肯定感を高めるように、担任の励ましの言葉に配慮した。

日誌	学しよう	ひょうか QQA	かんそう	発表
	今日のかだい		くり下がりが2回でる	計算
9/5	すんできしゅうできた	◎	ひけす時、はじ	かたず ひけす ひけす
	じぶんのかんがえ はっぴょうできた	◎	くり下がりが	はじめよ! かたず
	今日のかだいが わかった	◎	じぶんのポイントが わかった	かたず

【子どもの変容】

- ①自分の学びを振り返り、次の時間に努力したいことを発表する姿が見られた。
- ②担任の励ましの言葉を読み、自分の学習に生かそうとする姿が見られた。

課題6 学習内容の改善・充実

- 1) 児童生徒の学びを豊かにする地域素材の教材化、地域や家庭の教育力の活用
- 2) 地域のよさに気づかせ、積極的に働きかける学習
- 3) 幼・保・小・中・高間や異校種学校間の交流や併置校の特色を生かした学習

I 地域に根ざした 総合的な学習の時間の実践例 (上士幌町立萩ヶ岡小学校)

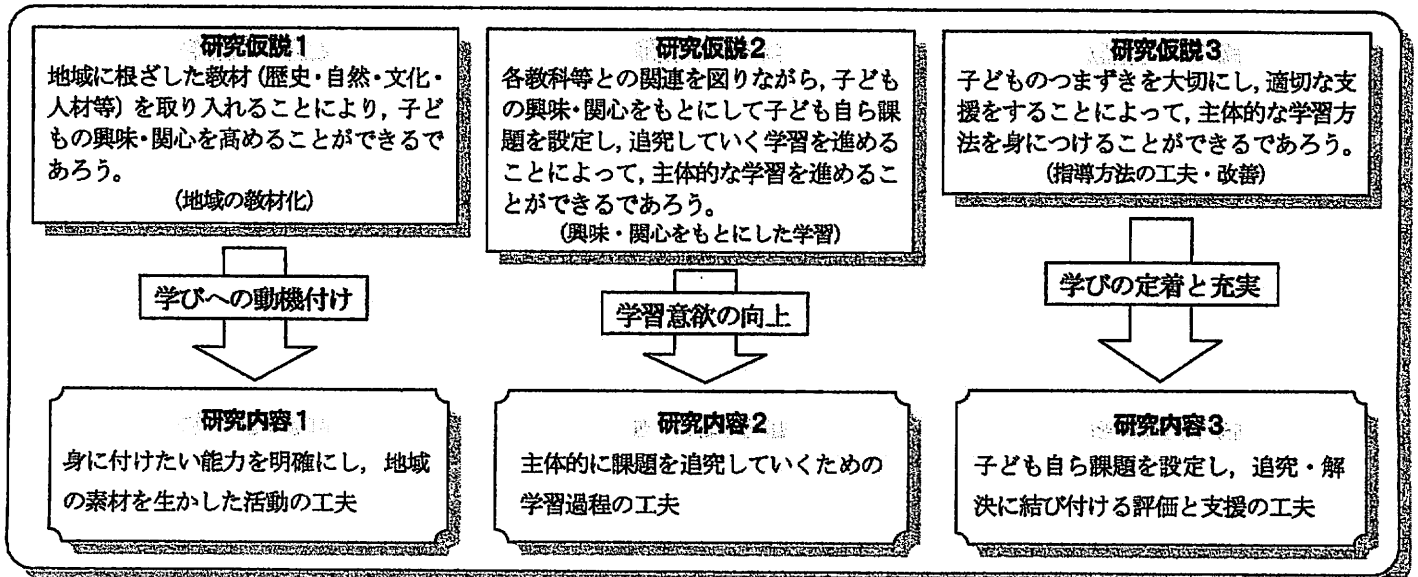
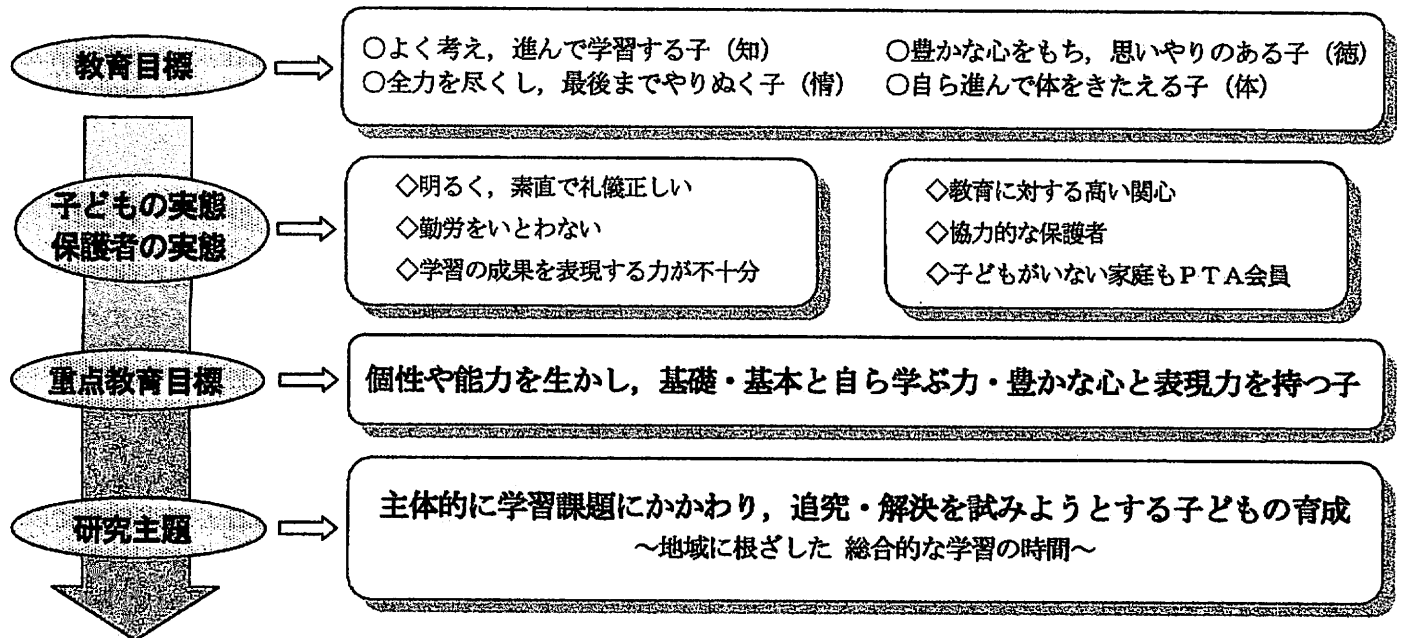
1 実践の概要

「総合的な学習の時間」においては、その趣旨やねらいを踏まえ、学校の教育活動全体における「総合的な学習の時間」の意義と位置付けを明確にするとともに、計画的な指導を行うことが大切である。

本校においては、自然体験や見学・調査、農園活動を通じた生産活動等の体験活動など、地域や学校、子どもの実態等に応じた特色ある教育活動を推進してきた。

そうした活動を通して私たちは、子ども一人一人に生涯にわたって自分らしさを発揮して主体的に「生きる力」をはぐくむことを目指してきた。子どもたちが知りたい、学びたい、解決したいという自分の明確な意思をもち、「主体的に学習課題にかかわり、追究・解決を試みようとする子どもの育成」の一つのアプローチとして、地域に根ざした「総合的な学習の時間」の実践的な研究を更に深めている。

2 全体構造



3 身に付けたい能力を明確にし、地域の素材を生かした活動の工夫

「総合的な学習の時間」(わくわく研究)の年間指導計画を作成するに当たっては、身に付けたい資質や能力及び態度、学習活動、指導方法等を位置付けた学年単元一覧表を作成し、活動名と学年間、内容相互の関連などを示す「総合的な学習の時間の構想一覧」という形でまとめてみた。「学級わくわく研究」「全校わくわく研究」を展開するに当たって、「学び方わくわく研究」を基本に活動の展開を図った。

活動名	学び方	学級わくわく研究 (学級における課題追究活動)		全校わくわく研究 (体験的な活動、地域の人や自然とかわかる活動)									
	学び方	3・4年	5・6年	すくすく農園	萩小まつり	すずらん荘	AET	環境学習					
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <h3 style="text-align: center;">身に付けたい能力</h3> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>問題解決の能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分で課題を決める ◇追究活動の計画を立てる ◇いろいろな方法で追究する </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>表現する能力</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分の考えをわかりやすくまとめる ◇工夫して発表する </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>調べ方の力</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇調べ方・まとめ方・発表の仕方を身に付ける </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>子どもへの主体的・協力的な関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇主体的に活動する ◇工夫して取り組む </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>情報の生かす力</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇自分の考えをもつ ◇学んだことを生活に生かす </div> </div> </div>												
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題追究活動のための基本的な学習方法を身に付ける</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◇子どもや学級の興味・関心に沿ったテーマをもとにした活動へ</p> <p>◇各教科・領域からの発展的・横断的活動を考慮</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>地域や学校の特色を通して課題追究へ</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>豊かな心の育成へ</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>外国語に慣れ親しみ異文化への興味・関心へ</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>体験的・具体的な活動を通して、身近な環境に直接触れる更なる経験へ</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 100%;"> <h3 style="text-align: center;">わくわく研究のねらい</h3> </div>						
4	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①各教科等の関連重視 ②情報重視 ③教育機器の重視 ④資料の読み取り ⑤学習資料の活用 ⑥まとめ方</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題追究活動のための基本的な活動</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>すくすく農園活動</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>萩小まつり</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>すずらん荘</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>AETと国際理解に関する学習</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>環境学習</p> </div>						
5								<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆写した写真をもとに、自分の課題を設定し、調べる計画を立てる。</p> <p>◆いろいろな方法を使って調べ、まとめ方や発表の仕方を工夫する。</p> <p>◆課題追究活動の基本的な方法を知り、身に付ける。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆訪問で気付いたことをもとに、自分で課題を設定する。</p> <p>◆主体的に課題にかかわり、根気強く解決する。</p> <p>◆相手を意識したまとめ方や発表を工夫する。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者、地域住民などを招待 ・農園活動の研究 ・成果の発表 ・農林水産省北海道農政事務所職員による作物の等級検査の実施 ・作物の調理と会食 ・模範店の開催 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>鳥の巣作り(学校誌)</p> <p>山菜ハイク(雑草)</p> <p>はっぱっぱ(学校)</p> <p>川の生き物さがし(音讀川)</p> <p>自然の宝物さがし(学校)</p> <p>秋の贈り物さがし(雑草・学校)</p> </div>		
6								<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆探検活動から自分なりの課題を設定し、調べる計画を立てる。</p> <p>◆多様な調査方法を使い、進んで課題追究に取り組む。</p> <p>◆相手によく伝えるように、まとめ方や発表の仕方を工夫する。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆体験活動をもとに、自分の力で課題を設定する。</p> <p>◆主体的に課題にかかわり、根気強く課題追究に取り組む。</p> <p>◆相手にわかりやすい効果的なまとめ方や発表の仕方を工夫する。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班での活動 ・研究作物、萩小まつりの会食メニューの決定 ・毎朝の水遣りや草取り ・観察記録の音讀 ・農業アドバイザー(畑の先生)の支援 ・収穫、脱穀等の体験 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>クマ博士になろう(学校)</p> <p>トラマハイキング(雑草)</p> </div>		
7													
8													
9													
10													
11													
12													
1													
2													
3													



4 主体的に課題を追究していくための学習過程の工夫（学級わくわく研究の場合）

自ら課題を見付け主体的に判断し、問題を解決していく学習を展開していくためには、学習過程を明確にしておくことが大切である。単元を構成するに当たっては、特に体験活動を重視し、子どもの驚きや疑問をもとに課題を設定し、課題の追究へとつなげていくことが大切である。

(1) テーマ 「カメラで写そう萩ケ岡」（25時間扱い）

(2) 目標 ○体験活動をもとに、自分の課題を設定し、調べる計画を立てることができる。

○課題追究活動の基本的な方法を知り、まとめ方や発表の仕方を工夫することができる。

時	学習活動	教師の支援（各教科等との関連）	評価規準
1 2 8	<p>課題に対する興味・関心を育てる場面。対象との出会いを通して問題を構成していく。</p> <p>○オリエンテーション ・今後の活動の流れをつかむ</p> <p>◆学習対象との出会い ・体験、見学、交流、聞き取りなど ・教科との関連 ・視聴覚教材、資料準備 ・メモ、写真などの記録</p> <p>○カメラでたくさんとってこよう ・不思議だ ・びっくりした ・発見した</p>	<p>多様な課題を含む対象との出会いを設定する。 （驚き、感動、疑問のある学習対象との出会い）</p> <p>・発見場所を地図に記入する ・写真の印刷をする</p> <p>◇社会「学校のまわり」と関連 ◇理科「生き物たんけん」と関連</p>	<p>【課題解決能力】 ・自分で課題を探り、計画を立てることができる。 □活動観察</p>
	<p>子ども一人一人が自らの課題を明確にもできるようにする。課題を設定する意欲を培う。</p> <p>◆自らの課題の決定 ・記録をもとに活動の振り返り ・疑問やこだわり等の「問い」をもつ ・課題を自分とのかかわりで考える</p> <p>◆自分なりの予想・仮説を立てる ・「問い」に対する予想や仮説</p> <p>◆追究活動の計画 ・計画書づくり ・課題や活動計画の交流</p>	<p>課題にかかわる疑問やこだわりを意識化させる。 ・感想や意見交流で課題を鮮明にさせる。</p>	<p>【課題解決能力】 ・自分で課題を決めて、調べる計画を立てることができる。 □活動観察 □ワークシート</p>
9 10	<p>○課題を決めよう ・写してきた写真から、もっと調べてみたい写真を選ぶ ・選んだ写真をもとに、課題を立てる ・発見したときに思ったことなどをまとめる</p> <p>○具体的に「説明すること」を考えよう ・「今、わかっていること」 ・「わからないこと」「もっと知りたいこと」</p> <p>○調べる計画を立てよう ・「説明すること」を交流しあう ・「説明すること」の中から調べることを交流する ・調べ方を考える</p>	<p>・ワークシートを用意する</p> <p>・写真によって説明事項が違うので、個別に支援を行う</p> <p>・お互いの意見を参考にして修正する</p> <p>◇国語「観察したことを」「昔のことを調べよう」と関連</p>	<p>【課題解決能力】 ・自分で課題を決めて、調べる計画を立てることができる。 □活動観察 □ワークシート</p>  <p>問いの連続から課題設定へ</p>
11 14	<p>◆いろいろな手段で情報収集する ・体験や見学 ・聞き取りやアンケート ・図書館、博物館や資料館 ・電話、FAX、インターネット等</p> <p>◆情報やデータの記録・整理 ・メモ、発見カード、観察記録 ・デジカメ、ビデオ、パソコン</p> <p>◆情報交換 ・追究活動を振り返り、発表会をする ・自己評価、相互評価を行う</p> <p>○調べよう ・わかったことをカードに記入する</p> <p>○第1回中間発表会を行う ・自分の活動の進み具合を確認する ・活動の問題点をつかみ、今後の活動に生かす</p> <p>○調べよう ・わかったことをカードに記入する</p>	<p>調べてくる場所等の確認</p> <p>・これまでの活動のワークシートを印刷し子ども同士で意見交流させる ・自己評価を行う</p> <p>◇国語「書く」「話す」と関連</p>	<p>【課題解決能力】 ・いろいろな方法を使って調べることができる。 □活動観察 □ワークシート □自己評価・相互評価</p>  <p>第1回中間発表会での交流</p>
20 25	<p>◆わかったことをいろいろな方法でまとめる ・追究活動を振り返る（学習の再構成） ・考えを整理する</p> <p>◆相手を考えて発表する ・発表の工夫をする ・発表会、交流会で発表する</p> <p>◆自己評価・相互評価をする</p> <p>○第2回中間発表会を行う</p>	<p>考えをまとめる方法を指導する。 ・調べた事実ではなく、考えのまとめを指導する。</p> <p>自己評価・相互評価を重視する。 ・活動の取り組み内容を検証し、改善を図る。</p>	<p>【表現する能力】 ・相手にわかりやすく説明文にまとめることができる。 □制作物 □活動観察 □自己評価・相互評価</p>

5 身に付けたい能力を明確にし、地域の素材を生かした活動の工夫の具体（全校わくわく研究の場合）

「総合的な学習の時間」において、多様で豊かな学習活動の展開を図るため、校内の学習環境を整えながら、地域の人々に協力を求めたり、地域の各関係機関と連携を図ったり、さらには自然や社会環境などを積極的に活用していくことが必要である。全校わくわく研究を進めるに当たって、体験を中心とした環境への取り組み、老人とのふれあいを通した心の教育等、課題を追究する子どもの活動の幅を広めてきた。



6 子ども自ら課題を設定し、追究・解決に結び付ける評価と支援の工夫

子どもが自ら課題を設定し、自分の問いを主体的に追究・解決していくためには、体験や見学活動等を通して疑問や問題意識を高めていくことが重要である。本事例は、子どもが自らの学習状況がわかる評価の工夫を図り、個に応じた支援を充実することにより、子どもの思いや願いが漠然として、曖昧であったものからしだいにはっきりと追究・解決に向けて課題を設定する意欲的な姿勢にまで高まっていった実践である。

(1) テーマ 「萩ケ岡の酪農を考える」(25時間扱い)

(2) 目標 牛舎見学、乳搾り体験の感想をもとに、課題を設定することができる。

学習の流れ	予想される子どもの活動	教師の支援と評価等																							
<p>◇ 前時までの体験活動 (9時間扱い)</p> <p>1 前時までの想起をする。</p> <p>社会「私たちの生活と食料生産～庄内平野での米作り・八戸市の漁業～」と比較し、食料生産を高めるための共通点や相違点を考えながら進めていく。</p> <p>理科「生き物どうしのかかわり」と関連させ、生物と環境を関連付けながら、図書館等でも調べていく。</p> <p>2 本時の活動を確認する。</p> <p>3 課題を考え、ノートとカードに書く。</p> <p>4 課題について、発表し交流しあう。</p> <p>国語「考えを伝え合って深めよう」の想起。</p> <p>5 次時の活動の確認をする。</p>	<p>施設見学と体験活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・I牧場の見学と乳搾り体験 ・ドリームヒルの見学(新しい酪農形態に触れる) ・見学の感想、わかったこと、知りたいこと、まどめ <p>○牛舎見学、乳搾り体験の感想を発表する。</p> <p>子どもの驚き 子どもの疑問 子どもの関心</p> <p>個人カード(短冊)による感想発表</p> <p>感想発表 意見交流</p> <p>子どもによる全員のカードの分類</p> <p>子どもによる分類したカードの名前付け</p> <p>【予想されるカードの名前】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛乳 ・乳製品 ・牛乳を使った料理 ・えさ ・農機具 ・設備 ・糞尿 ・仕事(1日、年間) ・酪農が盛んな理由 など <p>○一人一人の課題を決めよう。</p> <p>【予想される課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・牛乳は、なぜ体によいのか。 ・乳製品にはどんなものがあるのだろうか。 ・どんなえさが牛によいのか。 ・どんな農機具を使って仕事をしているだろう。 ・萩ケ岡は、なぜ酪農がさかんなのだろう。 <p>どんな疑問からか? どんな体験をしたからか? 不思議だったことは? 自分でやってみよう! 課題設定</p> <p>課題解決のため、どのようにして調べていくのか?</p>	<p>※ドリームヒル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロータリーパーラー ・約千頭の搾乳 <p>N君は乳搾り体験から、農機具の使い方へ課題を設定していった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自由にカードを貼らせ、雰囲気や和らげる。 ・カード発表は、強く心に残ったものとする。 ・見学したときの写真を有効に活用する。 <p>課題設定に向けた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験の重視 ・興味・関心・意欲の喚起 ・質問・意見の交流 ・課題への高まり ・課題の設定 <p>過去の体験活動をもとに、自分の知りたいことを明確にさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノートに記入し、本時の活動を自覚させる。 ・子どもに決めさせる支援をする。 <p>【評価】【課題設定能力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の力で課題を設定できる。 □活動観察、ノート、カード <p>国語「課題を見つけて伝え合おう」につなげていく。</p> <p>Tさんは、先生からヒントをもらい「牛乳からどうやって乳製品が作られるか」という課題を設定して、短冊カードにまとめた。</p>																							
<p>ワークシート</p> <p>テーマ 萩ケ岡の酪農を考える</p> <table border="1"> <tr> <td>体験のまとめ(感想・疑問など)</td> <td>体験の反省</td> </tr> <tr> <td>課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>理由</td> <td></td> </tr> </table>	体験のまとめ(感想・疑問など)	体験の反省	課題		理由		<p>自己評価カード</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>段階</th> <th>ふりかえること</th> <th colspan="4">自分の学びのふりかえり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>課題に出会う</td> <td>不思議だと思ふものを見つけ、思ったことやもっと調べたいことがわかったか。</td> <td>できた</td> <td>できた</td> <td>できなかった</td> <td>なかった</td> </tr> <tr> <td>課題を決める</td> <td>自分で課題を決め、調べる計画を立てることができたか。</td> <td>できた</td> <td>できた</td> <td>できなかった</td> <td>なかった</td> </tr> </tbody> </table>	段階	ふりかえること	自分の学びのふりかえり				課題に出会う	不思議だと思ふものを見つけ、思ったことやもっと調べたいことがわかったか。	できた	できた	できなかった	なかった	課題を決める	自分で課題を決め、調べる計画を立てることができたか。	できた	できた	できなかった	なかった
体験のまとめ(感想・疑問など)	体験の反省																								
課題																									
理由																									
段階	ふりかえること	自分の学びのふりかえり																							
課題に出会う	不思議だと思ふものを見つけ、思ったことやもっと調べたいことがわかったか。	できた	できた	できなかった	なかった																				
課題を決める	自分で課題を決め、調べる計画を立てることができたか。	できた	できた	できなかった	なかった																				

II 小・中の学びの連続性を生かした学習例～起業家教育（大樹町立中島小学校）

1 小・中学校の学びの連続性を図る目標設定

小・中学校が連携を図り、地域の産業等を効果的に活用し、起業家教育の充実を図るためには、9年間を見通した起業家教育で育てたい力を明らかにして実践することが大切である。

そこで、育てたい力を共通の観点から分析し、学年の発達段階に応じた目指す資質・能力を明確にし、小・中学校が共通理解を図りながら実践を深めている。

＜起業家教育で育てたい力＞

領域	小学校低学年	小学校中学年	小学校高学年	中学校	高等学校
人間関係形成能力	・友達と仲よく遊び助け合うことができる	・自分や友達の良いところを見つけ協力して学習や活動に取り組むことができる	・異年齢の活動に進んで参加し、役割と責任を果たすことができる	・リーダーとフォロアーの立場を理解し、互いに支え合いながら仕事をすることができる	・リーダーフォロアーシップを発揮し相手の能力を引き出しチームワークを高めることができる
表現力	・挨拶や返事ができる ・自分の考えを発表できる	・自分の考えや気持ちをわかりやすく表現できる	・話し合いに積極的に参加し、他の考えを理解しようとすることができる	・他とのコミュニケーションを図りながら、相手の立場を理解して積極的に人間関係を築くことができる	・異年齢、異性など多くの人に対して時と場に応じたコミュニケーションを図ることができる
企画力	・試行錯誤を繰り返して、様々なことに挑戦することができる	・自分の考えや願いをもち、進んで学習活動に取り組むことができる	・自分の考えや願いなどを計画的に実現することができる	・自分のよさを理解しながら、与えられた環境を効果的に活用して、よりよいものを創造しようとする企画・立案できる	・自己の職業的な能力や適正を生かして、課題解決のための企画・立案を進んで行い、社会と自分にとって、よりよいものを目指し改善することができる
情報活用能力	・身近で働いている人の様子を知り興味・関心をもつことができる	・いろいろな仕事や生き方があることが理解できる	・身近な産業や職業の様子を理解し自分の調べようとする情報を採ることが出来る	・産業や職業に関する情報を様々なメディアを利用して調査、収集、活用することができる	・事業に関する権利や義務、責任及び事業を興すための手続き、方法について情報を収集、整理し活用することができる
問題解決能力	・自分のことを進んで実行できる	・自分の仕事を最後までやり遂げることができる	・自分の生活や学習上の課題に気付き進んで解決することができる	・生活や学習など自分の生き方や進路に関する課題を見つけ積極的に解決することができる	・自分の願いや現実の課題に対して、様々な体験、経験を通して、課題解決の方法やスキルを身につけることができる

2 具体的な学習プログラム

育てたい力

○自分の意見や気持ちをはっきりわかりやすく表現するとともに、話し合いに積極的に参加するなどの表現力

○夢や憧れをもち、その実現のために計画的に取り組もうとするなどの企画力

ねらい

地域の一次産業である漁業・酪農についての理解を深め、地域の産業を身近にとらえることができるようにする。

主な活動

《平成16年度》

・地域の方を講師とした地域の食材(サケ)を使った調理実習

《平成17年度》

・地域の産業「漁業」に目を向け、保護者と連携、協力して実施した定置網漁の見学
・地域の産業「酪農」に目を向け、地域の行事と連携した酪農祭への参加

主な成果

地域の産業について関心をもつとともに、地域や保護者と連携した活動を充実させることができた。

子どもが、父親や母親の職業の様子について実際に触れたことにより、職業や勤労に対する意識が高まった

3 実践の概要

(1) 地域の人材を生かした学習活動の実践

本実践では、サケ漁を取り上げるとともに、地域の方々を講師として招き、「サケの加工」を通して、地域の産業の一つ漁業についての理解を深めた。

実践内容1

「サケを使ったかまぼことサケ汁の調理」

《活動のねらい》

地域住民や保護者の方々を講師として招き、地元で採れたサケを使った調理実習を行うことにより、地域の一次産業としての漁業について理解を深め、地域の産業を身近にとらえることができるようにする。

○ 本時の目標

- ・地域の食材を用いた実習を通して漁業に触れ、働くことが自分たちの生活を豊かにすることに気付く。(情報活用能力)
- ・外部講師や保護者など、様々な人とかかわり合いながら意欲的に活動することができる。(人間関係形成能力)

《指導計画》





- 計画
 - ・地域体験の検討
 - ・指導計画の検討

- 関係機関との連携
 - ・地域住民、保護者への説明と依頼

- 事前指導
 - ・児童に計画案を提示
 - ・縦割りグループの編成
 - ・グループで活動内容の検討
 - ・地域住民、保護者との打合せ

- 活動
 - ・サケをさばく
 - ・サケ料理
 - ・試食会

- 評価
 - ・児童の評価
 - ・地域住民、保護者の評価

過程	学 習 活 動	留意点★評価
ふれる つかむ	① 講師の方を紹介する。 サケを使ったかまぼことサケ汁をつくろう。	
活動 する	② 活動の流れを確認する。 ③ サケのさばき方を説明する。 ※サケをさばき、すり身をつくる。 ・各グループの役割分担に沿って進める。 【講師の説明】 【さばく児童】   ④ かまぼことサケ汁の作り方を説明する。 すり身をつくったところで「かまぼこ焼きグループ」と「サケ汁グループ」に分かれる。 サケのかまぼこ焼き サケ汁   ・グループのメンバーや保護者と協力し、食材を大切に意欲的に活動する。 ・自分の役割を自覚し、最後まで責任ある活動をする。	包丁などの扱いに十分留意する。 ★ 評価 ◇低学年 身近で働いている人の様子がわかる ◇中学年 いろいろな仕事があることが理解できる ◇高学年 身近な職業を理解し調べることを探ることができる お手伝いの保護者は子どもの主体的な活動となるよう留意する。 ★ 評価 ◇低学年 友達と仲よく助け合って活動することができる ◇中学年 協力して活動に取り組むことができる ◇高学年 活動に進んで参加し、役割と責任を果たすことができる
まとめ 広げる	⑤ 完成した料理を多目的ホールに配膳し、参加者全員で食べながら、活動を振り返る。 ・自分の作った料理が、他の人に喜ばれることを実感する。 ⑥ 自己評価を行い、感想等を発表する。	

(2) 地域の産業を生かした学習活動の実践

本実践では、「地域の人材」に着目した活動を踏まえ、子どもたちの保護者が従事している「地域の産業＝漁業」に視点を当て、自分の家の職業について改めて考え直す機会とした。

実践内容2 「定置網漁の見学」

《活動のねらい》

- ・地域の産業の一つである漁業に従事する父親の姿を見て、職業への理解を深め、働くことに関心を持ち、自分たちの生活と仕事と結びついていることを理解することができる。
- ・いろいろな人々と結びつき、かかわり合いながら意欲的に活動することができる。

《学習活動の流れ》



定置網漁の見学の計画を立てよう!

- ・地引網の体験を踏まえ、地域の漁業について調べる。
- ・調べたことをもとに、自らの課題を設定する。

定置網漁船に乗り込もう!

- <準備>
- ・体調、服装の確認
 - ・班員と担当教師の確認
 - ・ライフジャケットの選定
- <乗船・見学>
- ・ライフジャケットの装着
 - ・船長から定置網について説明
 - ・留意事項の確認
 - ・見学の視点の確認
 - ・4隻の漁船に分乗して見学する。
 - ・自分の父親の漁船に乗る。
 - ・漁場へ向かい見学する。
 - ・寄港後、サケの陸揚げの見学

活動を振り返ろう!

- ・漁業について理解を深める。
- ・漁業に携わる人々の姿から職業や生き方について考える。

関係機関との連携

- <教育委員会>
- ・実施計画の検討
 - ・漁港までの移動手段
 - ・ライフジャケットの確保
- <漁業協同組合>
- ・定置網漁に関する情報提供
 - ・実施計画の検討
 - ・乗船方法や安全の確保
 - ・出漁の判断基準
 - ・活動のねらいの確認
 - ・漁師（保護者）の要望 等

活動の様子



【説明】

大丈夫かな？少し心配だ。



【乗船】

父親の目の色が変わった



【陸揚げ】

今日も大漁だ。

《子どもの評価》

- ・お父さん方は、命がけで働いているんだな。
- ・おじさん方の力こぶがすごかった。
- ・家に帰って、船のこと魚のことを父さんにもっと聞いてみたい。
- ・また、船に乗りりたいな。

《教師の評価》

- ・父親の働く姿を目の当たりにして、仕事や生きることについて子どもの心に響いたものがあった。
- ・「感謝の気持ち」や乗船して働くことのすばらしさや厳しさを事後指導できちんとおさえる必要がある。

《漁師の方々の評価》

- ・漁師の家でも子どもを乗せて漁に行くことはないので、大変意義がある。
- ・自分の働く姿を子どもが見ている、仕事に張りがでた。
- ・陸では、お母さんが働いていることも見てほしい。
- ・これからも続けてほしい。

(3) 地域の行事と連携した学習活動の実践

本実践は、中島地区の中心的な産業である「酪農」に視点を当てて、「酪農祭」という地域の行事と連携し、実際の体験活動を通して、職業に対する理解を深めるとともに、自立心やチャレンジ精神を培うことをねらいとして行ったものである。

実践内容3

「地域行事『酪農祭』への参加と乳製品づくり」

《活動のねらい》

- ・地域の産業の一つである酪農についての体験学習を通して、職業への理解を深め、働くことに関心を持ち、自分たちの生活と仕事が結びついていることを理解することができる。
- ・人々の工夫が生活を豊かにしていることを感じるとともに、意欲的に活動することができる。

活動の様子

活動1 「酪農祭」におけるジャッジング



- 【ジャッジングの説明】
- ・ジャッジングの方法
 - ・ポイントの説明



- 【ジャッジング】
- ・生まれたての牛のジャッジング
 - ・搾乳している成牛
 - ・体型等の観察



- 【結果発表】
- ・結果発表
 - ・牛についての解説

活動2 「酪農祭」における乳製品づくり

【事前打合せ】

- ・実行委員会との打合せ
学校職員、地区祭り担当者
農協職員
- ・試作品づくり
- ・活動のねらいの共有化 等

【事前指導】

- ・牛の秘密を探ろう！
図書館やPCで
- ・牛乳のゆくえ
乳製品の秘密

課題設定



【バターづくり】

- ・生乳(糊立)をペットボトルに入れる。
- ・ペットボトルを振り、脂肪分を固化させる。



【試食】

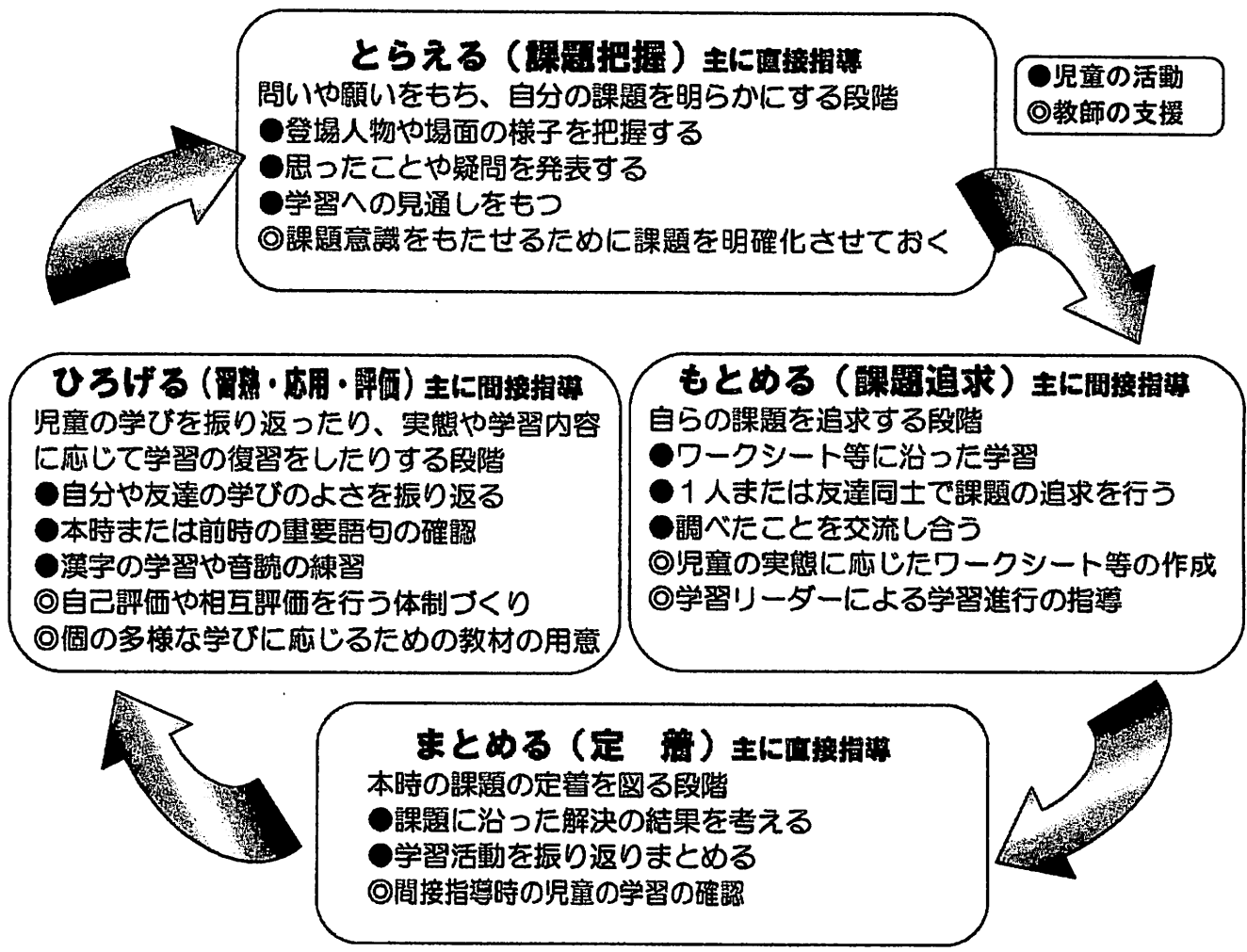
バターってこんな風
にできるんだな。自分の家の
牛乳のゆくえがわかったよ。

課題7 学習指導過程の改善充実

- (1) 学習意欲を高め、課題意識をもって主体的に学習に取り組む指導過程
- (2) 児童生徒一人一人の多様な考え方や個人差・学年差に応じた指導過程
- (3) 教科などの特質に応じた問題解決的な学習指導過程

I 課題意識をもって主体的に学習に取り組む指導過程例（土別市中多寄小学校）

1 一単位時間の4つの段階とその学習活動



2 学年別指導の充実のために

学年別指導を行っているため、1単位時間では、教師の「わたり」と学習過程の「ずらし」を用いた授業をすることになる。そのため、児童の実態や学習内容に応じた学習の流れを明らかにしておく必要がある。学年別指導において、学習過程をずらして柔軟に組み合わせることによって、間接指導時でも児童一人一人が自分の力で考える時間を保障することができると考えた。

① 基本形

第○学年	とらえる	もとめる	まとめる	ひろげる
教師のわたり	直接指導			
	間接指導			
第○学年	ひろげる	とらえる	もとめる	まとめる

課題の設定の段階、学習の定着の段階は教師がついて指導を行い、課題解決、学習内容の習熟・応用のときに、児童が自ら進めていく。自分で課題解決させるためには、低学年から自ら学習が進められるための手立てが必要

② 一方の学年の課題把握を間接指導にした形

第0学年	とらえる	もとめる	まとめる	ひろげる
教師のわたり	直接指導			
	間接指導			
第0学年	とらえる		もとめる	まとめる

上学年の子（内容によっては下学年の子）には、学習リーダーを中心として、課題把握に向けて学習を進める。

児童が自ら課題の把握に向けて必要なことを整理していくことで、直接指導に入ったときに、要点を絞って学習を進めることができ、時間を有効に活用することができる。

③ どちらか一方の学年に重点を置いた形

第0学年	とらえる	もとめる	まとめる	ひろげる
教師のわたり				
第0学年	ひろげる		とらえる	もとめる

単元において、直接指導がより多く必要な場面（単元の課題把握や、単元のヤマ場の学習）では、どちらか一方の学年に重点を置いて指導を行う。もう一方の学年は、ワークシート等を充実させ、自ら学習を進められる手立てを整える。

④ 重点のかけ方を前半と後半に分けた形

第0学年	とらえる	もとめる	まとめる	ひろげる
教師のわたり				
第0学年	ひろげる		とらえる	もとめる

両方の学年で、課題の把握から追求までの状況を確認に見取りたいときに用いる形。一方の学年は課題把握と課題追求の段階で、もう一方の学年は課題把握から定着まで、教師が直接指導を行うことができる。

⑤ こわたりを使い指導する形

第0学年	とらえる	もとめる	まとめる	ひろげる
教師のわたり	こわたり			
第0学年	とらえる	もとめる	まとめる	ひろげる

学習過程の前半と後半で両学年を細かく指導を行う形。両学年の学習状況を見取り、必要に応じて指導する。主に低学年の学習や学習単元の初期の段階で活用する。

⑥ 同時間接指導を使い指導する形

第0学年	とらえる	もとめる	まとめる	ひろげる
教師のわたり	同時間接指導			
第0学年	ひろげる	とらえる	もとめる	まとめる

ワークシート等での学習や、児童間での交流をしている場面など、課題解決の段階で両方の学年の児童一人一人の学習状況を見取ることができるので、実態を確認することができ、状況に応じたきめ細かな指導ができる。

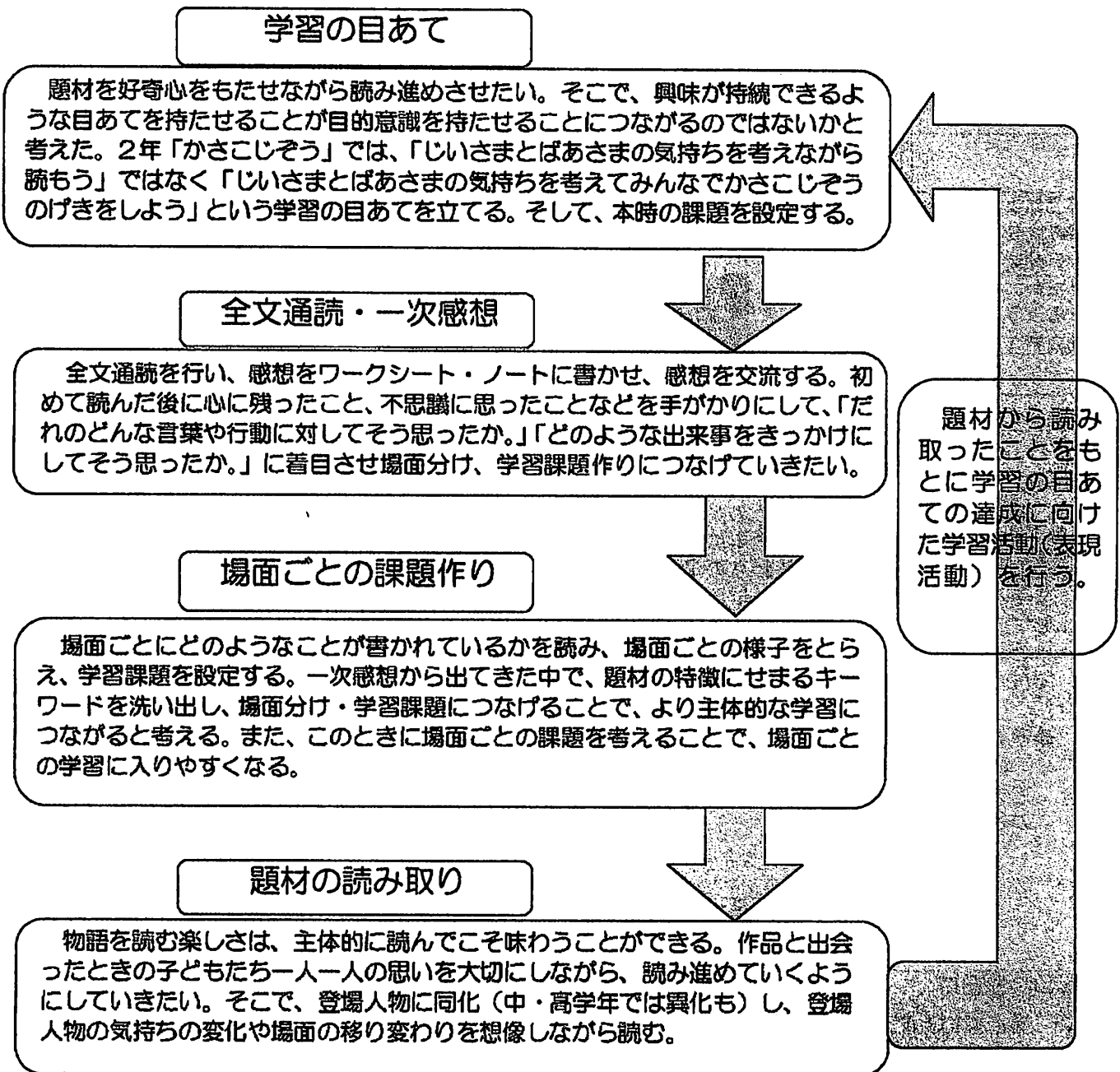
※本校では、主に①と②の形で物語文の授業を進めている。

こわたりや同時間接指導は、普段の学習の中で何気なく行われているものになってしまうことがある。しかし、学びの定着のために、その題材でどの指導形態を用いるのか、また、その場面で何を身に付けさせたいのかを明らかにする必要があると考える。



3 目的意識・必要感をもたせるための指導計画の工夫

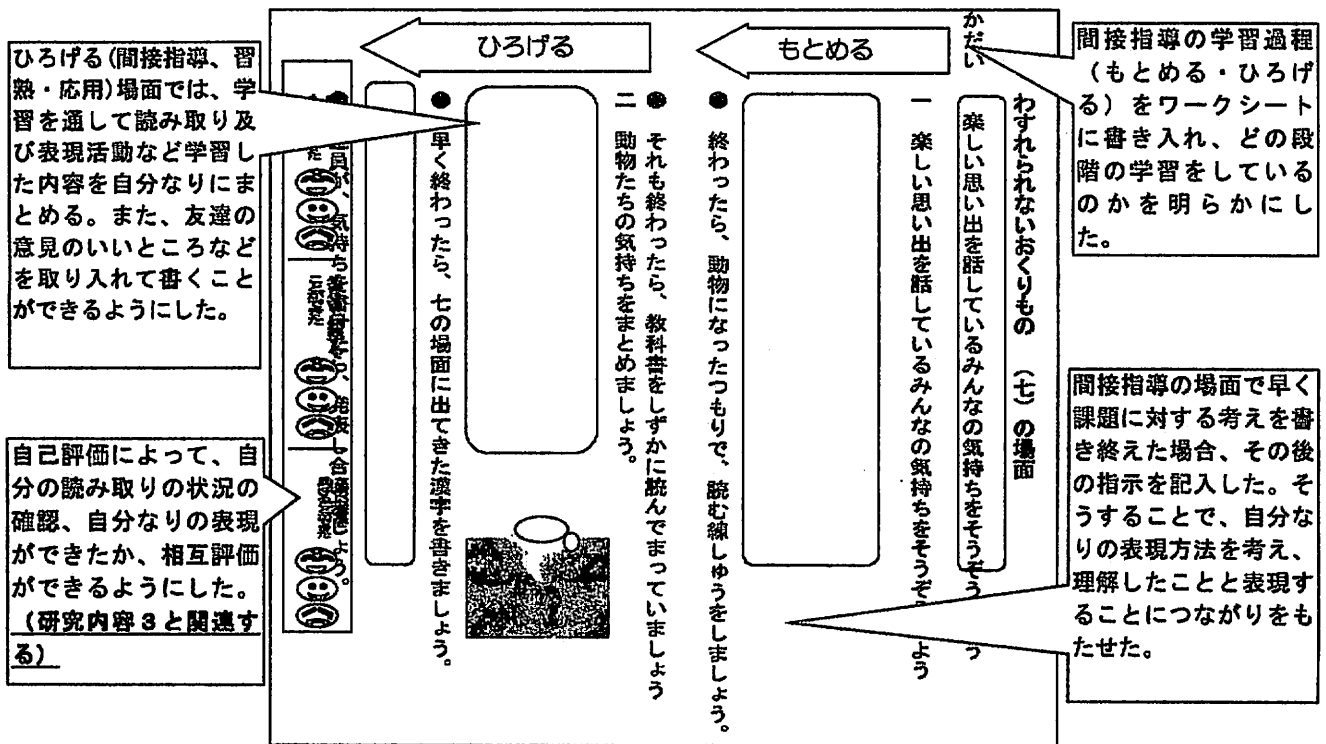
児童が題材に主体的に関わろうとしていくためには、まず導入の段階で子ども達に「何のために読むのか」という目的を意識づけることが必要である。そうすることで、題材への興味・関心をさらに高めることにつながっていくと考えたからである。そこで、年間を通して物語教材では以下のような形で学習活動を進めていくことにした。



4 自ら学習を進められるための児童の学び方の定着の工夫

(1) ワークシートの内容の工夫

複式の間接指導の場面において内容を確かに読み取らせ、自らの考えを明確にさせるために、ワークシートを活用している。ワークシートを活用することで、課題の解決に必要な事項を整理したり、学習の手順を把握したりできるので、児童にとって確かな読み取りの効果的な手段である。また、読み取りのためだけでなく、表現活動につなげたり、友達の見解を参考にまとめてつなげたりできるようにした。



(2) 自ら学習を進めていくための学習リーダーの育成

間接指導時においては、低学年の頃から自分たちで学習を進められるような指導をしていくことが必要である。そこで、日替わりの学習リーダーを決め、リーダーを中心に学習を進めていく。学習リーダーが進める内容は、学年においてどのような役割ができるかを考えて設定し、6年間を見通して育てていくことが大切である。

この活動を通して、児童が自分の役割を意識し、主体的・意欲的に学習を進めることができるのではないかと考えた。

●学習リーダーの役割

はじめのうちは、リーダーの机の上に内容を書いたカードをおいておき、リーダーが進めやすい工夫をする。また、リーダーとしての活動が負担にならないように児童の実態に応じてリーダーの役割を考慮する。

学習リーダーのリーダーシート 2年

- 今日は、 の場めんです。みんなで今日のかだいを読みましょう。(こくばんに書いてあるかだいを読む)
- では、教科書を読みましょう。今日は、()読み()回です。
- ワークシートのもんだいをしましょう。
- みなさんおわりましたか。
- (おわったら)では、はっぴょうをしましょう。
- きょうかしよをしずかに読んで、まっています。

Ⅱ 算数科の特質に応じた単元構想と問題解決的な学習指導過程例（名寄市立智恵文小学校）

1 単元構成に視点を当てて・・・単元づくり

(1) 意図的な算数的活動の設定

本校では、児童の実態や算数的活動の意図、複式形態の指導との関連付けを図り単元を構成している。その際、児童の学習状況の評価に基づいて、どのように指導をしていくのかを考えるために、指導計画の構想の手順を次のように統一し、単元の指導構想を作成している。

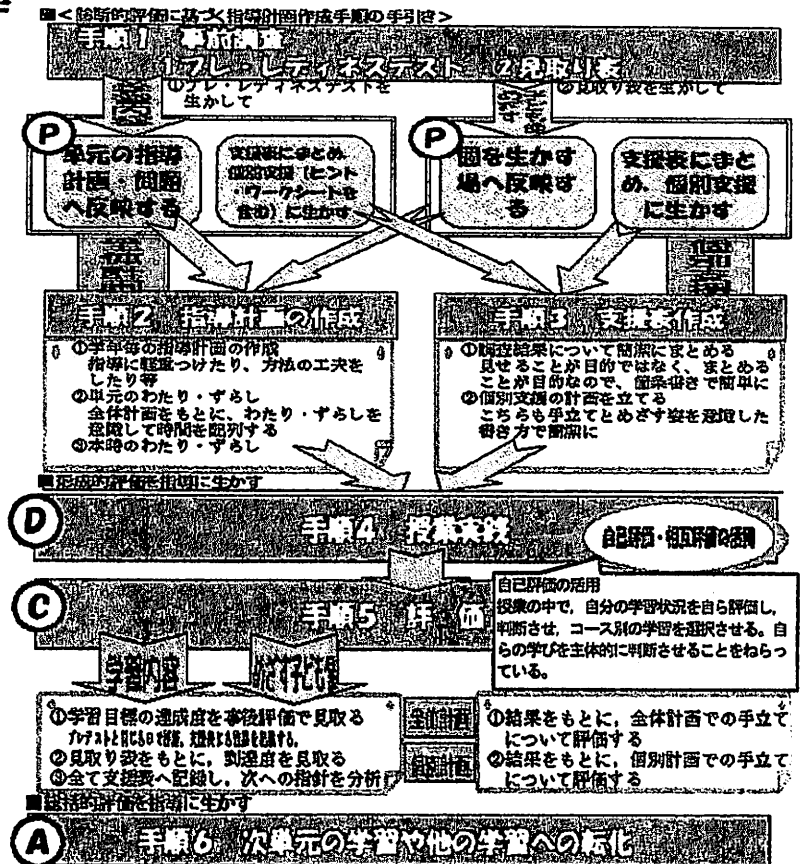
○資料1 単元の指導計画作成の手引き

手順1 事前調査
レディネステスト（既習内容の確認）とプレテスト（学習する内容を学習する前に確認）を行い、学習の状況を把握する。これをもとに全体と個別の計画をたてていく。

手順2 指導構想-指導計画
ここが本年度の重点。指導構想に基づいて単元を通して評価を生かした指導が継続的に展開できるように指導計画を作成する。

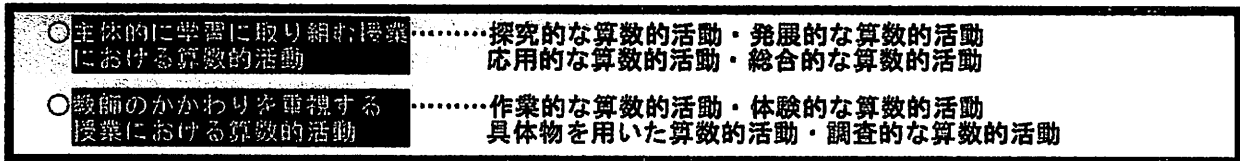
手順3 支援表作成
事前調査をもとに、個別の指導計画をたて支援表を作成する。

ほくは、お金で考えると、まとまりがつくりやすいな。

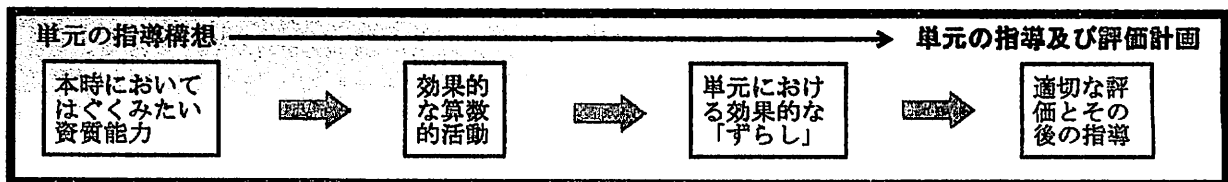


こうした取り組みを進めることにより、単元全体ではぐくみたい資質能力が明らかになるとともに、単元における1単位時間の授業の位置付けが明らかになった。

そこで、学習指導要領で例示されているさまざまな算数的活動を、本校では次のように整理し、単元を構成することとした。



観察・操作・実験等を重視する時間においては、教師のかかわりを多く設定し、思考活動が中心となる時間においては、児童が主体的に考える場を保障するよう努めた。



1単位時間の中の算数的活動の意図を明らかにし単元を構成したことにより、効果的な教師のかかわりが見られ、意欲をもって学習に取り組む姿が見られるようになってきている。

(2) 複式形態を踏まえた単元における指導の構想

本校では、1つの学年の単元の指導を構想していく上で、次の4点を基本としている。

- ① 単元を通して、基本的には問題解決的な学習を展開する。
- ② 単元の指導過程に、児童が操作・観察・実験などを通して問題の解決に主体的に取り組む場を位置付ける。
- ③ 単元の指導過程に、繰り返し演習に取り組んだり必要に応じて説明を補足したりする習熟の場を位置付ける。
- ④ 単元末には、習熟の程度に応じたコース別などによる定着の場を位置付ける。

これらのことを踏まえ、各学年の学習活動のねらいを踏まえ、重点的にかかわる学年と主体的に学ばせる学年の組合せにより、単元のレベルで「ずらし」を考え、効果的な算数的活動を双方に位置付け、複式形態を効果的に展開する単元の指導を構想している。

○19年度 1年「10よりおおいかず」・2年「長さ(2)」単元の指導構想例

「10よりおおいかず」全9時間 単元の構想 (課題は、数表について(習熟段階))			「長さ(2)」全7時間 単元の構想 (課題は、数表について(習熟段階))				
単元	単元の概要	問題解決で目指す目標	算数的活動	単元	単元の概要	問題解決で目指す目標	算数的活動
1	10よりおおいかずのねらい(1)	10よりおおいかずのねらい(1)	10よりおおいかずのねらい(1)	双方の本時のねらいを踏まえ、重点的に児童にかかわる学年を網掛けで示している。			
4	習熟・利用・活用(数あてゲーム)	みつけるしらべる あはわす ふかめる	探求的な算数的活動				
5	20よりおおいかずのねらい(2)	20よりおおいかずのねらい(2)	探求的な算数的活動				
7	習熟・利用・活用	みつけるしらべる あはわす ふかめる	探求的な算数的活動				
8	20よりおおいかずのねらい(3)	20よりおおいかずのねらい(3)	探求的な算数的活動				
9	コース別学習 応用問題 習熟問題	みつけるしらべる あはわす ふかめる	発展的な算数的活動 探求的な算数的活動				
2	長さ(2)のねらい(1)	長さ(2)のねらい(1)	長さ(2)のねらい(1)				
3	習熟・利用・活用(いろいろなものさし)	みつけるしらべる あはわす ふかめる	体系的な算数的活動				
4	長さ(2)のねらい(2)	長さ(2)のねらい(2)	体系的な算数的活動				
5	習熟・利用・活用	みつけるしらべる あはわす ふかめる	探求的な算数的活動				
6	長さ(2)のねらい(3)	長さ(2)のねらい(3)	体系的な算数的活動				
7	コース別学習 応用問題 習熟問題	みつけるしらべる あはわす ふかめる	発展的な算数的活動 探求的な算数的活動				

本時においてはぐくみたい資質能力を踏まえ、問題解決的な学習の指導過程で重視する段階と算数的活動のねらいを示している。

習熟→利用→応用→発展というような基本的な学習の流れを設定している。発展では、習熟度別にコース別学習を設定し、個の学びに応じた学習を展開している。

また、この指導構想に基づいて、単元の指導計画及び評価計画を作成している。特に、評価においては、1単位時間の重点を明らかにし次の指導に生きるよう作成している。

1単位時間における「ずらし」の考え方を、単元構成の段階で効果的に組み入れることにより、それぞれの授業の指導の重点等を明らかにすることができた。また、単元全体の指導をイメージし、見通しをもって単元を通した指導を展開することができるようになるとともに、評価の重点を明確にすることで、どのような算数的活動を展開するかが明らかになった。

2 複式形態に視点を当てて.....複式形態の授業づくり

(1) 支援表の活用

本校では、1単位時間における教師のはたらきかけを効果的に講じていくため、児童一人一人の理解の度合いやその児童に合った具体的な手立てをまとめた個別の支援表を作成している。

支援表は、日常の学習の様子や事前調査の結果等、児童の実態に基づいて作成している。

「指導に生きる評価」に向けて、事前調査等をもとにした評価を個の指導に生かし、具体的な手立てを構想し、個に応じた指導を実践している。

ア. 支援表の作成手順

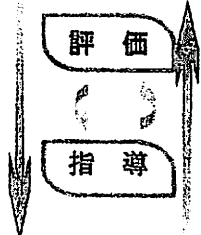
児童の診断的評価として「プレテスト、レディネステスト」による習熟度の見取りと「見取り表」によるめざす子ども像に照らした到達度の見取りを行っている。学年ごとの実態把握や評価とともに、個別の結果をまとめた「支援表」を作成し、実践している。

○19年度3年 「たし算・ひき算」の支援表より抜粋

実態に対する手立てを明記し指導に生かす。		指導後の調査結果と様子の変容を記述し、その後の指導に生かす。				
児童	関連単元の評価	プレ・レディネステストの結果	個の特徴と学習の様子	教師の手立て	本校調査の結果	主体的な学び・豊かな表現
W・M	・2位数どうしの筆算(加法)を、ほぼ正しくできる。 ・2位数どうしの筆算(減法)を、ほぼ正しくできる。	レディネス 6問中4問正解 プレ 16問中11問正解	・自分に厳しい傾向。 ・反応しをとても慎重に行う。 ・課題の取り組みを先送りしてしまうことがある。 ・ノートのまとめ方が非常に丁寧。	・自信を高める目標かけを行っている。 ・発表や説明の仕方の基本形を示す。	16問中 15問 正解	筆算の書き方を自信をもって発表するようになってきた。
W・R	・2位数どうしの筆算(加法)は、時間はかかるがほぼ正しくできる。 ・2位数どうしの筆算(減法)は、繰り下がりには理解しているが、計算力が不十分。 ・筆算の表記は、丁寧さに欠ける。	レディネス 6問中3問正解 プレ 16問中14問正解	・課題の取り組みは遅いが慎重さに欠ける。 ・計算の表記が正確さを欠いているためにミスをしている傾向が強い。 ・教師の顔の表情を聞き取らしていることがある。	・時間はかかっても、まずは丁寧なノートのまとめ方を身につけさせる。 ・反復練習の習慣を身につけるよう働きかける。	16問中 15問 正解	学び合いの中で自信をもち始め、発表に意欲的になってきた。今後も継続して指導。

1. 支援表の活用方法

支援表にまとめた個の実態をもとに、指導過程の中で意図的に個を生かす場を設定している。このことにより、一人一人の発表に対する意欲や自信を高めるとともに、次の学習に対する意欲の喚起へとつなげている。



○19年度3年 「たし算・ひき算」 豊かな表現につなげる実践例

それぞれの筆算の方法を発表・交流する場面

<p>①発表・交流 ・学習リーダーを中心に、くり下がり操作のしかたを発表する。 ・友達の発表を、要点に注意しながら、よく見て聞く。 ・例が大切かを話し合わせる。</p> <p>②まとめ ・そのままではひけないときは、上の位からくり下げて計算する。 ・2回くり下がる時は、へった数をていねいに書きのこす。</p>	<p>①発表・交流 ・声量等、声に関する意識だけでなく、具体物の活用についても、聞き手を意識して行わせる。</p> <p>②まとめ</p>	<p>OW・Rは3年生全員に自信をもって発表できるように声かけをする。 OW・Mは、考えに自信をもって進んで発表できるように声かけをする。</p> <p>☆児童の気付きも加味していく。</p>
---	---	--

教師の手立てをもとにして、「みつける」段階と一人学習を終えた後の「あらかわす」段階で、意図的に表現する場を設定している。単元を通して取り組んできた結果を支援表に記述し、その後の指導に生かしていく。

今後は、これまでの活用のほか、次のようなことを検討しながら、支援表のより効果的な活用の在り方を模索していく予定である。

支援表を作成することにより、個の実態の把握とともに、個別の指導計画をたてることができ、一人一人が主体的に学ぶことができるようになった。

(2) 問題解決的な学習に即した「わたり」「ずらし」の検討

本校においては、学年別指導の一層の充実に向けて、支援表を活用して意図的な「わたり」や「ずらし」を効果的に展開するよう、問題解決的な学習の指導過程を下表のように分析した。このことにより、1単位時間において、明確な意図をもって各学年に対する「わたり」「ずらし」を行うことができ、実態に応じた具体的な手立てを講じるとともに効果的な直接指導や間接指導を展開することができた。

児童の学習状況に応じたかかわりをもつことにより、新たな課題を見つけ、主体的に学ぶ姿が見られるようになった。

本校における指導過程における教師の重点的なはたらきかけの例

直接指導	問題解決的な学習の指導過程	間接指導
○	問題提示 → 課題把握	
○	課題追究 (自力解決)	○
○	課題追究 (練り合い)	
○	課題・問題解決 → 習熟	○
	定着 (練習問題)	○
○	応用・発展	

3 問題解決的な学習に視点を当てて・・・問題解決的な学習づくり

(1) 話し合い活動の工夫

本校では、問題解決的な学習を進める中で、児童が自分の考えをもち、自信をもって表現することができるよう、話し合い活動に視点を当てた。基本的な内容に取り組んでいる場合は、教師の言葉か

けを基本とする表現を、また、応用的な内容に取り組んでいる場合は、自分の考えを伝え合う算数的活動を展開した。

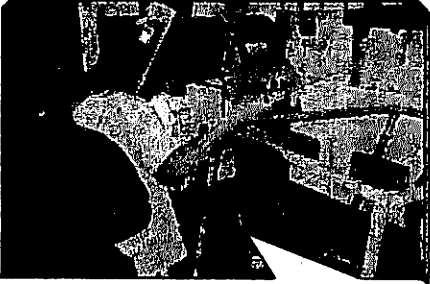
○19年度6年 「体積」 「基礎」→「応用」で自分の考えに自信をもって表現する話し合い活動の例

基礎	大きな体積の求め方を考えましょう		みづける しるべる あらわす	基礎的な内容の問題解決的な学習
	④見通し ⑤一人学習-I ・公式を使って問題に取り組む ・発表方法を考えノートに書く ・1mを1mに足立てて、立方体をつくる	⑤見通しをもたせる ⑥一人学習に取り組ませる ・早く終わったら発表方法を考えさせる		
応用	1mはどれでしょうか		みづける しるべる あらわす	応用的な内容の問題解決的な学習
	④見通し ⑤一人学習-II	⑥見通し ・3つの箱を用意し、 ⑦一人学習をさせる		

公式を活用しながら発表するようにした。前時の学習を振り返らせたり、児童のつぶやきを拾い上げ言葉かけをすることにより、自信をもって問題解決に取り組んだ。

発表をとおして、他の考えと自分の考えを比べたり関連付けたりして、理解を深めた。

基礎的な問題で「わかる」という自信をもたせることにより次の学びへの意欲へとつながり、発表への自信にもつながった。さらに、授業への集中力も高まり、応用の段階における学習に意欲的に取り組む姿が見られるようになった。



どれも1mだから、間違いはないね。

(2) 具体物などを活用した操作活動の充実

一人学習を進める際には、自分の考えに基づいて、自信をもって学習を進めることができるよう具体物を積極的に用いた操作活動を設定するなどの工夫をしている。

○18年度2年 「100よりおおいかず」 具体的操作活動でまとまりを意識させる事例

学習活動	教師の活動	留意点/支援/評価
一人学習 おりがみ(難易度★) 10の束にならているおりがみを放えていく	一人学習に取り組ませる タイル(難易度★★★) 10の束をタイル1本に置き換え、10本で1枚になるという活動をしていく	④見通し 具体的操作活動に取り組みなから、何百何十を1にして放えるようにする 1R、WRが作業にとまどうときは、既習の100のまとまりをどうしたら自覚できるかと思いつくまで待つ その後、取り表に形をとり出し、説明させる
お金(難易度★★) 10の束を10円に置き換えて、いくつで100円になるという活動をしていく	絵にかく(難易度★★) 10の束を絵で表し、線で囲み、100を作っていく活動をする	目標を踏まえて、学習活動と教師の活動を呼応させ、努力を要すると判断される児童に対する手立てを、評価を生かすなどして事前に位置付けています。

自信をもって学習に取り組むことができるよう、自分の考え方や具体物を操作することを大切にした学習を進めることにより、考えを自分の言葉で表現できるようになってきている。

課題 8 指導方法の改善・充実

- (1) 3特性（へき地・小規模・複式学級）を生かした指導方法
- (2) 学ぶ楽しさを実感し主体的な学習を生む指導方法
- (3) 学習効果を高める個別化・集団化などの指導方法

I へき地の特性を生かした総合単元的な道徳学習例（松前町立館浜小学校）

1 総合単元的な道徳学習～へき地の特性を生かす

本校の子どもの実態として、自分で考えたり、友だちと相談したりしながら、判断し、行動することに対して消極的な面が見られる。このことは、人間関係の固定化や多様な価値に触れる機会の少なさが一因として考えられる。

子どもが自分で判断し、行動することに対する意欲を高めるためには、道徳的価値を自分のこととしてとらえ、道徳的な判断や実践の場を計画的かつ効果的に確保できる総合単元的な道徳学習を実践する必要がある。また、子どもたちの日常生活と道徳学習が関連していることを意図的に理解させることで、生活全般での道徳的意識も高められるであろう。本校が進める総合単元的な道徳学習は、家庭や地域との連携を生かした総合単元であり、家庭や地域との緊密で良好な関係を礎としたへき地の「よさ」を生かす取組でもある。

《平成18年度第1・2学年 → 平成19年度第1・2学年》

総合単元名	なかよしだいさくせん (2)-3 友情、信頼、助け合い	ねらい	互いに認め合い、助け合い、身近にいる友だちと仲良くしようとする態度を育てる。		
「事前の活動」					
教科	特別活動・総合的な学習	学校行事・その他			
○国語「おおきななぶ」(1年) 仲間と協力する大切さを知る。	○朝や帰りのねらいのねらい 目標化・...	○学芸会の取組 ...努力			
<div style="border: 2px solid black; padding: 5px; display: inline-block; transform: rotate(-15deg); font-weight: bold;"> 児童の道徳的価値の実践力の高めのため より高めのチャレンジ </div>					
本時	資料 題材名	「くまさんの...	特別活動・総合的な学習		
「事後の活動」					
指導計画を作成する際に、家庭や地域において、おおよそどの子どもも体験することの中から、学習する道徳的価値の自覚と実践力の高まりにつながる諸活動と関連付ける。 例：地域と連動した学校行事、地域の祭典、館浜小PTA・スポーツ少年団の諸活動など					
道徳の時間を中心とし、道徳的実践の場を「事前」「事後」に計画的かつ効果的に配置した総合単元構想 総合単元的に関連させた運動会の取組					
本時	資料 題材名	「さかあがり」	ねらい めあてをきめて、一生懸命に努力し、向上しようとする態度を育てる。		
月	教科	特別活動 総合的な学習	道徳の時間	学校行事 その他	家庭・地域
5	○国語「音読活動」 ・正しく読めるよう練習を続けることができる。 ○算数「ひき算のひっさん」(2年) ・計算練習を根気強く続ける。 ○体育「表現」 ・課題に向け、根気強く練習できる。	○朝の会・帰りの会 ○当番・係活動	○ぼくのなかのぼく ・自分で努力できる対象を広げようとする。	○運動会とその取組 ・全校練習や学年練習において、めあての達成のため努力しようとする。	○館浜スポーツ少年団朝マラソンの取組 ○家庭との心のノートやり取り ・P21に記入した児童の感想をもとに家庭で話題にしよう。
6					



2 指導過程～少人数・複式学級の特性を生かす

少人数・複式学級の特性を生かし、場に応じた学習形態の活用や、教職員が一丸となった協力体制の確立などの工夫を図り、道徳的価値の自覚を促すことができるようにしている。

また、上学年、下学年の子どもの実態に即した支援をしたり、役割演技やディスカッション等のもち方を工夫したりするなど、多様な考えに触れることができるようにしている。

《第3・4学年》

過程	活動内容と主な発問・子どもの反応予測		
	2. 資料の鑑賞(①)を聞き、赤おにの気持ちを考える。 赤おには、どんな気持ちで立て札を立てたのでしょうか。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・誰か遊びに来てくれるかなあ。 ・はやく人間と友だちになりたいなあ。 ・おいしいお菓子を作らなきゃ。 		
	3. 資料の鑑賞(②)を聞き、赤おにの気持ちを考える。 きこりに逃げられた時、赤おにはどんな気持ちだったでしょう。		
	<ul style="list-style-type: none"> ・悲しい。 ・もう、いやだ。 ・くやしい。 ・どうしたら友だちになれるんだろう。 		
	かんがえる	3年生 このあと、赤おにはどうするでしょう。	4年生 犠牲になろうとした青おには、どんな気持ちだったのでしょうか。
		<ul style="list-style-type: none"> ・青おにと芝居をする ・青おにに悪いから断る ・他のアイデアを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・親友のために何とかしてあげたい ・力になりたい ・赤おにがかわいそうだ
まよめる	5. 資料の鑑賞(④)を聞き、赤おにの気持ちを考える。		
	3年生 青おにに手紙を書きましょう	4年生 青おにはどんな気持ちで赤おにに手紙を書いたのでしょうか	
<ul style="list-style-type: none"> ・悪者になってくれてありがとう ・ひどいことをしてごめんね ・帰ってきて、また一緒に遊ぼうよ 		<ul style="list-style-type: none"> ・赤おにくん、幸せになってね ・赤おにくん、大好きだよ ・いつまでも友だちだよ 	
7. 教師の説話を聞く。 「有森裕子さんのエピソードから」			

少人数学級としてのチャレンジ

学習形態の工夫

- 子どもたちがより、資料を身近にとらえるための工夫



「目の前で展開される物語」

- 立場や役割の意識付けに効果的な形態の工夫
- 学級全員の意見に触れる場の設定



複式学級としてのチャレンジ

上学年、下学年の子どもの実態に即し、それぞれに対する発問を設定したり、役割や立場を変えたりしながら、価値に対する個々の考えを深めようとする工夫



協力体制のチャレンジ



「担任以外の教職員の参加により多様な考えに触れる工夫」

3 「館浜チャレンジシート」～指導と評価の一体化に生かす

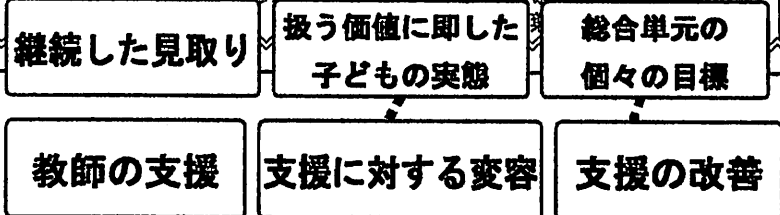
総合単元的な道徳学習の諸活動において、子ども一人一人がどのように変容したのかを的確にとらえることは、道徳学習での支援策につながる効果的な手立ての一つである。そのため、「館浜チャレンジシート」に子ども一人一人に対する教師の働き掛け、変容などについて継続的に記入し、指導と評価の一体化を進めた。

《取組の初期：第1・2学年》

「館浜チャレンジシート」

実態と目標	児童1	児童2	児童3	児童4	児童5	児童6	児童7	児童8
	楽しさを通して、活動に意欲をもつ。努力に対しやや抵抗	友だちと競ったりすることで活動に意欲をもつ。優位に	声掛けや賞賛が活動意欲になる。自分で決めたことに	努力しようとする意識は高い。こつこつ努力できる。でき	自分の目標を設定でき、黙々と努力できる。	どんな活動にも黙々と努力することができる。放課後や	友達と競うことを好む。自分が優位に立つ・立たないで	得意なことに対して高い意欲をもてるが、苦手なことに
	自分がやらなければいけないことをとらえ、取り組むことができる。	勝ち・負けにとらわれずに、努力しようとする気持ちがある。	自分でできることの対象を広げることができる。	困難を克服しようとする気持ちを醸成させる。	好き・嫌いにとらわれずに、努力しようとする。	努力したことを根拠に、自信がもてる。	勝ち・負けにとらわれずに、努力しようとする意欲をもつことができる。	失敗にくじけずに、前向きに生活できる。
国語 「ひらがな」「かん字のひろば①」	やり直しをしながらでも、丁寧に書くことができるようになった。	支援を必要としながらも、字形に注意し書くことができた。字形が整いつつある。	支援を必要としながらも、字形に気を付けることができた。	時間をかけながらも、丁寧に練習できた。	残った課題を自主的に家庭に持って帰る取り組みができた。	時間をかけながらも、筆順に注意し、練習することができた。	残った課題を自主的に家庭に持って帰る取り組みができた。	やり直しに対して、くじけてしまうことがあった。
国語 「音読活動」	継続して、練習に取り組んでいる。すらすら読めるようになった。	意欲的に練習を継続している。すらすら読めるようになり、次の課題にも意欲的に取	意欲を持って、練習できた。家庭でも熱心に練習している。(家庭からの	母さんに聞いてもらいながら、読めるまで熱心に練習している。(家庭からの		家庭でも読めるまで何回も練習でき(家庭が自発)		練習を継続させるために、励

初期型



《現在形：第1・2学年》

「館浜チャレンジシート」

氏名	児童1	指導・支援のスパイラル
実態	どんな活動にも、もくもくと努力することができる。放課後	までも努力を継続できる。
目標	努力したことを根拠に、自信がもてる。	
<p>時間をかけながらも筆順に注意し、練習していた。○月○日 ↓字形の間違いに対し、練習を促した。× ↓「一緒に練習しよう」個別指導で意識を促した。◎ 区別して書くように意識できた。○月○日</p> <p>朝マラソンに対し事前から意欲が感じられた。○月○日 ↓道徳の時間で「努力の継続」について考えた 3kmに挑戦し続けている○月○日 目標「3kmを休まないで走る」</p>		
<ul style="list-style-type: none"> 体育「鉄棒・一輪車」 朝の会・帰りの会 当番・係活動 家庭「家庭学習の見取り」 算数「ひき算の筆算」 体育「表現」 運動会とその取組 心のノートの記述 家庭「心のノート」 館浜スポーツ少年団「朝マラソン」 道徳の時間「ぼくの中のぼく」 		

これらの見取りを「道徳の時間」における子ども一人一人への支援の具体化にも生かしている。

4 「家庭との協働」～「心のノート」を生かす

子どもたちを取り巻くものすべてが、子どもたちの成長を支援する環境にとらえ、その一環として、「子どもと家庭で作る心のノート」の活用を工夫したことにより、家庭における道徳教育への意識の高揚が図られるとともに、家庭と連携した子どもの指導を進めることができた。

